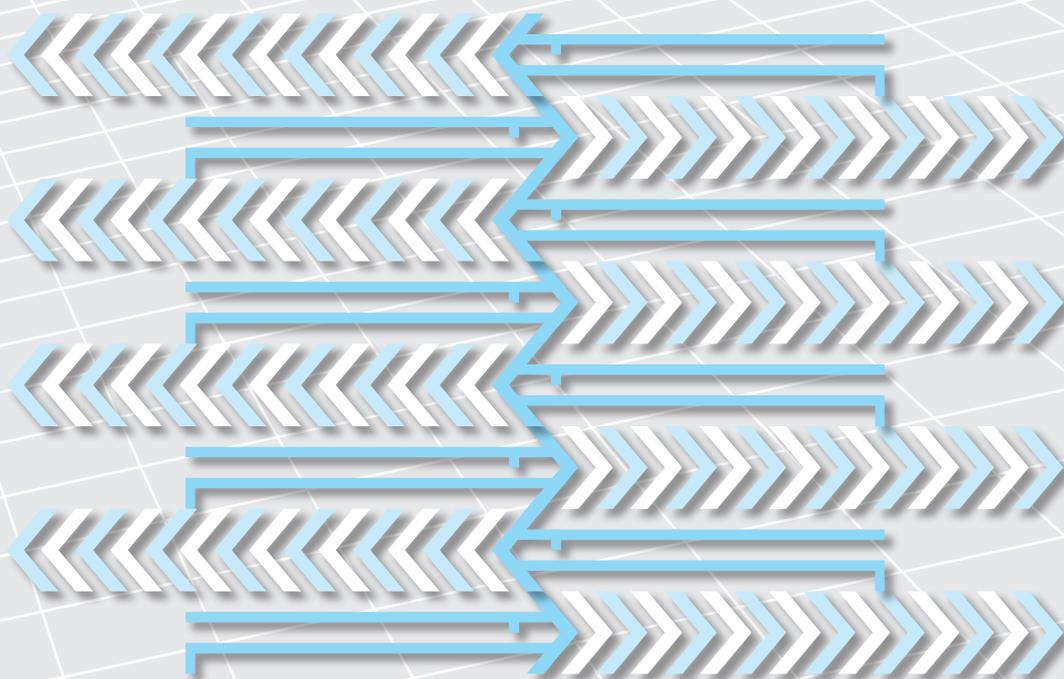


発展的な学習を推進するための指導資料

中学校編

国語



平成24年3月
東京都教育委員会

はじめに

東京都教育庁指導部長 坂本和良

東京都教育委員会は、児童・生徒の確かな学力の定着と伸長を図ることを目的に、中学校では平成15年度から、小学校では平成16年度から「児童・生徒の学力向上を図るための調査」を実施しています。これまでの調査結果から、東京都の児童・生徒の学力の定着状況は、習熟の程度の遅いグループの層から習熟の程度の早いグループの層にかけて、幅広く分布しているという傾向が見られ、そのことから、児童・生徒一人一人の習熟の程度に応じた指導の充実を図ることが必要となっています。

東京都教育委員会では、児童・生徒一人一人の学習のつまずきを防ぐために、平成20年10月に国語科及び算数・数学科において、学習の素地として確実に身に付けさせる必要がある資質・能力とその段階的な指導を明らかにした「児童・生徒の学習のつまずきを防ぐ指導基準（東京ミニマム）」を作成し、説明会を実施してきました。

さらに、習熟の程度の早い児童・生徒に対する指導の充実を図るためには、教科用図書だけではなく、教材開発による応用・発展的な内容を提示したり、課題選択や課題学習を設定したりするなどの学習を広げ、深め、進める指導の工夫が求められます。

そこで、東京都教育委員会では、平成22年度に「発展的な学習を推進するための教材・指導法の開発委員会（小学校部会）」を設置し、学習指導要領の内容を十分に身に付けている児童に対して、学習指導要領の内容を一層広げ、深め、進める学習を行うための教材・指導方法の開発を行い、その成果として、「発展的な学習を推進するための指導資料 小学校編」を刊行しました。そして、本年度は、「発展的な学習を推進するための教材・指導法の開発委員会（中学校部会）」を設置し、本指導資料「発展的な学習を推進するための指導資料 中学校編」を刊行しました。

各学校におかれましては、これまでの取組に加えて、本指導資料を活用し、生徒の習熟の程度に応じた指導をより一層充実させていただくことをお願いいたします。

最後になりましたが、本指導資料の作成に当たり、御尽力いただいた皆様に、改めて深く感謝申し上げます。

目 次

◇	はじめに	
◇	目 次	
I	「発展的な学習を推進するための指導資料」〈中学校編〉における基本的な考え方	
1	習熟の程度に応じた学習指導	4
2	発展的な学習の定義と育成したい資質・能力	4
3	「発展的な学習」の学習指導要領における位置付け・留意点について	5
4	発展的な学習における評価の基本的な考え方	6
5	本指導資料の活用について	7
II	国語科における発展的な学習の事例	
○	国語科における発展的な学習についての基本的な考え方	8
○	国語科において開発した発展的な学習を推進するための指導資料	9
1	内容・場面・相手に合わせた音読を身に付けよう	10
2	文化祭のお知らせを出そう	20
3	俳句を読み、推敲しよう	28
4	もし、平安貴族として生まれたら	36
5	司会の方法を身に付けよう	42
◇	発展的な学習を推進するための教材・指導法の開発委員会（中学校）委員名簿	

I 「発展的な学習を推進するための指導資料」〈中学校編〉における基本的な考え方

1 習熟の程度に応じた学習指導

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」（東京都実施）の分析結果から、学力の定着状況が習熟の遅い層から習熟の早い層にかけて、広く分散している傾向を捉えることができ、より一層、基礎的・基本的な内容の確実な習得及び習得した知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養っていく必要があることが明らかとなった。これらの資質・能力の育成には、個に応じた指導の充実が必要であり、中でも児童・生徒一人一人の習熟の程度に応じた指導の充実が大切である。

まず、習熟の程度の遅いグループへの対応として、児童・生徒の日常の学校生活の実態を十分把握して、到達度目標を明確にするとともに、児童・生徒の興味・関心を喚起し、目標の達成に向けた段階的・系統的な指導が求められる。

東京都教育委員会では、「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析結果から、東京都の児童・生徒が学習指導要領の国語科及び算数科・数学科の目標を達成し、内容を習得するに当たって、「学習の素地として確実に身に付けておく必要がある資質・能力」とその段階的な指導を明らかにした「児童・生徒の学習のつまずきを防ぐ指導基準（東京ミニマム）」を平成20年10月に作成・公表した。さらに、平成21年度には、新しい学習指導要領（平成20年3月告示）の内容及び平成20年度の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果、平成21年度の国の「全国学力・学習状況調査」の結果を踏まえ、指導事例に加えて「東京ミニマム」の改訂を行い、説明会を開催した。

次に、習熟の程度の早いグループへの対応として、教科用図書だけではなく、教材開発による応用・発展的な内容を提示したり、課題選択や課題学習を設定したりするなどの指導の工夫が求められる。

東京都教育委員会では、習熟の程度の早い児童・生徒への指導の支援として、平成22年度に「発展的な学習を推進するための教材・指導法委員会（小学校）」を設置し、発展的な学習を推進するための教材・指導方法の開発を行い、その成果として、「発展的な学習を推進するための指導資料 小学校編」を刊行した。

平成23年度においては、「発展的な学習を推進するための教材・指導法委員会（中学校）」を設置し、発展的な学習を推進するための教材・指導方法の開発を行い、本指導資料を刊行したところである。

2 発展的な学習の定義と育成したい資質・能力

学習指導要領に示す内容を十分に身に付けている児童・生徒に対しては、個に応じた指導の充実を図る観点から、児童・生徒の能力・適性、興味・関心等に応じて、さらに学習を広げたり、深めたり、進めたりすることが求められる。

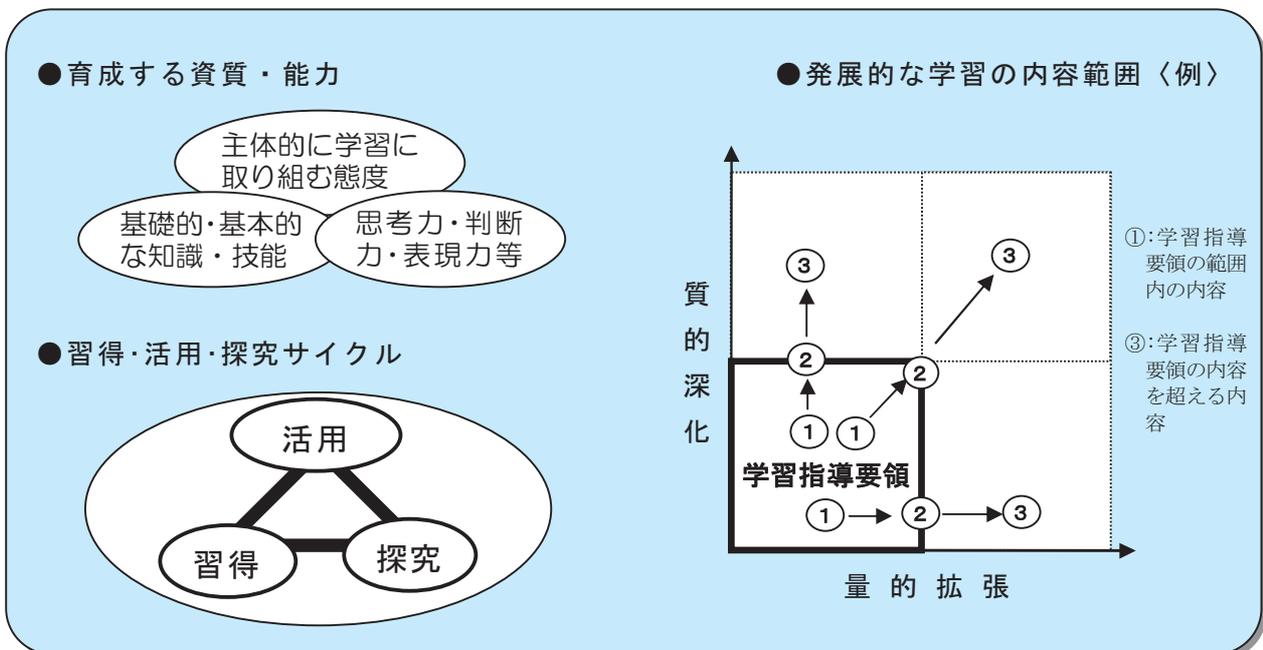
東京都教育委員会では、発展的な学習について、「学習指導要領に示された内容の理解を一層深める学習や広げる学習、さらに進んだ内容についての学習」と定義した。この定義により、発展的な学習を次の二点から設定した。

第一点は、学習指導要領の内容をさらに深めたり、広げたりする学習である。

第二点は、学習指導要領の内容をさらに進める（超える）学習である。

また、「習得」・「活用」・「探究」を学習活動で捉えるならば、発展的な学習は、課題を解決するために習得した知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力等を育成する「活用」・「探究」の学習活動が中心となる。ただし、「習得」・「活用」・「探究」は、「探究」から「活用」に進んだり、「活用」から「習得」に進んだりすることもある。

このように、これらの発展的な学習を通して、基礎的な知識及び技能を確実に習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等をより一層育み、主体的に学習に取り組む態度を養っていくことが大切である。



3 「発展的な学習」の学習指導要領における位置付け・留意点について

東京都教育委員会では、学習指導要領に示す目標及び内容を十分に身に付けている児童・生徒に対しては、個に応じた指導の充実を図る観点から、児童・生徒の能力・適性、興味・関心等に応じて、さらに学習を広げたり、深めたり進めたりするための発展的な学習が大切であると考えている。

文部科学省においても、平成14年1月17日、「確かな学力向上のための2002アピール『学びのすすめ』」において、「学習指導要領は最低基準であり、理解の進んでいる子どもは、発展的な学習で力をより伸ばす」と示している。このことを踏まえ、発展的な学習は、平成20年3月に告示された「中学校学習指導要領 総則」の「第2 内容等の取扱いに関する共通的事項」に、「2 学校において特に必要がある場合には、第2章以下に示していない内容を加えて指導することができる。また、第2章以下に示す内容の取扱いのうち、内容の範囲や程度等を示す事項は、すべての生徒に対して指導する内容の範囲や程度等を示したものであ

り、学校において特に必要がある場合には、この事項にかかわらず指導することができる」と位置付けられている。

発展的な学習の留意点としては、「中学校学習指導要領 総則」の「第2 内容等の取扱いに関する共通の事項」において、「第2章以下に示す各教科、道徳及び特別活動並びに各学年、各分野又は各言語の目標や内容の趣旨を逸脱したり、生徒の負担過重となったりすることのないようにしなければならない」と示されており、生徒の学力の定着状況を学習の進行具合に即して把握する必要がある。

また、「第4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」として、「1 各学校においては、次の事項に配慮しながら、学校の創意工夫を生かし、全体として、調和のとれた具体的な指導計画を作成するものとする。(1)各教科等及び各学年相互間の関連を図り、系統的、発展的な指導ができるようにすること」「2 以上のほか、次の事項に配慮するものとする」「(7) 各教科の指導に当たっては、生徒が学習内容を確実に身に付けることができるよう、学校や生徒の実態に応じ、個別指導やグループ別指導、繰り返し指導、学習内容の習熟の程度に応じた指導、生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れた指導、教師間の協力的な指導など指導方法や指導体制を工夫改善し、個に応じた指導の充実を図ること」と示されており、学校をあげて組織的・計画的に年間指導計画を作成し、発展的な学習を推進していく必要がある。

4 発展的な学習における評価の基本的な考え方

発展的な学習においては、個性の一層の伸長を図る観点から、生徒のよい点を積極的に評価していくことが重要であり、適切に評価することが大切である。具体的には、生徒一人一人のよい点や可能性、進捗の状況などの評価（個人内評価）を重視し、学習指導の過程において、適宜、評価の結果を生徒に伝えることにより、その後の学習に意欲的に取り組めるようにし、指導要録の「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄に記入し、その後の指導に生かすことが大切である。

なお、生徒の学習状況の評価については、発展的な学習を行ったかどうかに関わらず、学習指導要領に示す目標及び内容に照らして、その実現状況を評価する「目標に準拠した評価」によって行うものである。したがって、発展的な学習に取り組まなければ高い評定（例えば「4」や「5」）などを付けないということではないことに留意する必要がある。

評価の実施に当たっては、評価の観点や評価規準、生徒の発達段階に応じて、生徒との対話、ノート、ワークシート、学習カード、作品、レポート、ペーパーテスト、質問紙、面接など多様な評価方法の中から、その場面における生徒の学習の状況を的確に評価できる方法を選択していくことが必要である。また、生徒による自己評価や生徒同士の相互評価を工夫することが大切である。

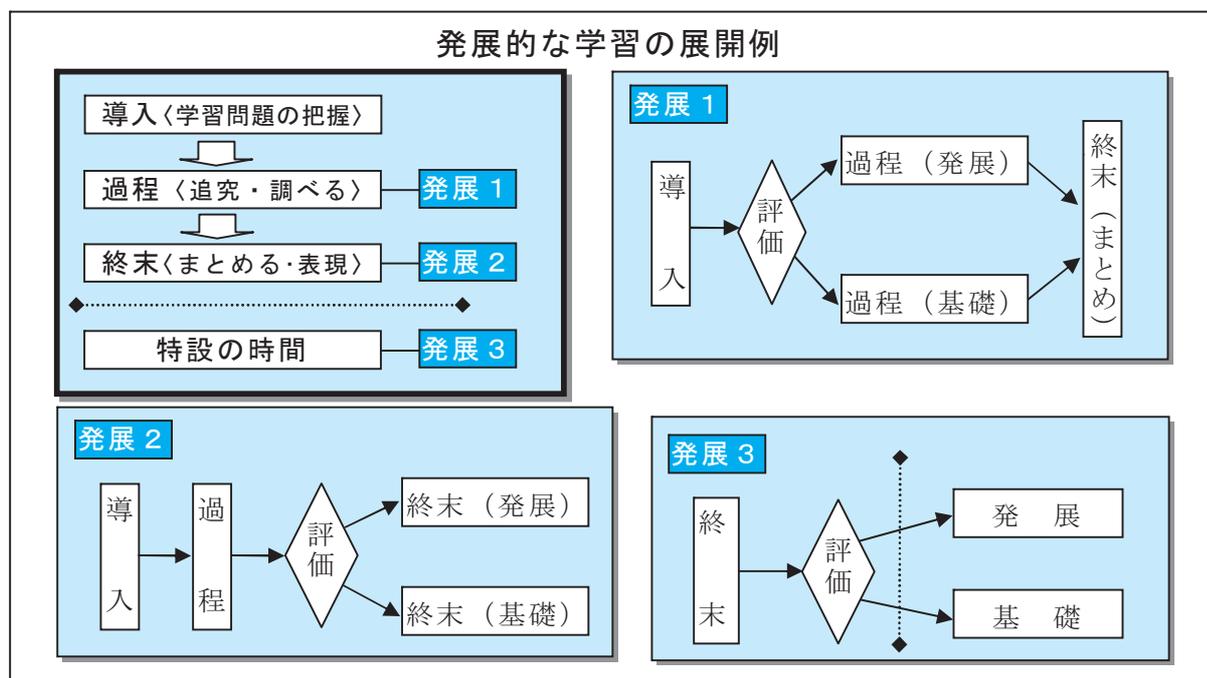
各学校においては、個に応じた指導の充実のため、指導と評価の一体化を進め、指導に生かす評価が可能となるような指導計画を立て、発展的な学習を展開していく必要がある。

5 本指導資料の活用について

本指導資料における指導方法と教材の活用に当たっては、前記の「1 習熟の程度に応じた学習指導」から「4 発展的な学習における評価の基本的な考え方」を十分に踏まえた上で、国語・社会・数学・理科・外国語（英語）における年間指導計画に、組織的・計画的に発展的な学習を位置付けることが大切である。

また、指導計画を位置付ける際には、育成したい資質・能力を明確にし、教科・単元の特性、生徒の学力の定着状況等の実態を十分把握した上で、「単元の指導計画の過程」・「単元の指導計画の終末」・「特設」等、効果的に位置付ける必要がある。

展開方法については、目標や教材特性及び生徒の実態に応じて、個別指導、グループ別指導、一斉指導など、効果的な方法をとる必要がある。



本指導資料の事例は、次のようなフレームによって構成している。

- 1 事例の概要（○時間扱い）
本事例は、どのような発展的な学習なのかを具体的に記述している。
- 2 指導計画の位置付け
本事例は、単元のどこに位置付くのかを記述している。
（「1 単元の過程」「2 単元の終末」「3 特設の時間」）
- 3 目標
「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の4観点から、本事例で培いたい資質・能力を重点化・焦点化して、記述している。
- 4 学習活動の展開
 - 主な学習活動 ・ 学習内容
「○主な学習活動」「・学習内容」や予想される生徒の反応を記述している。
 - 指導上の留意点
指導する上での留意点を、具体的に記述している。
 - 資料等
授業で使用するワークシート、資料等を記述している。
 - ◆ 評価〔方法〕
評価内容、評価の観点、評価方法等を記述している。
- 5 資料等
表、グラフ、読み物、図やワークシート等、授業に活用できるようにしてある。

Ⅱ 国語科における発展的な学習の事例

○ 国語科における発展的な学習についての基本的な考え方

国語科においては、以下の国語科の特性を踏まえ、発展的な学習に関する指導資料を開発した。

・領域について

各領域の、関連をもちながらも国語科の内容構成に沿って「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」、「C 読むこと」からなる3領域と、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の発展的な学習を推進するための指導資料の開発を行った。

・指導事項について

国語科の学習の特性として、図で示したように、指導内容が、系統的・段階的に上の学年につながっていきながらも、螺旋的・反復的に繰り返し、話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと、の能力の定着を図ることを基本としている。例えば、

「読むこと」では、文学的な文章について、第1学年では場面の展開や登場人物などの描写に注意して読むこと、第2学年では登場人物の言動の意味などを考えて読むこと、第3学年では場面や登場人物の設定の仕方をとらえて読むことといったように指導事項が系統化されているが、第2学年で「登場人物の言動の意味などを考えて読む」ためには、実際には、前提として「登場人物などの描写に注意して」読まなければならない。第1学年の指導事項を踏まえた上で、第2学年の指導事項を指導する必要がある。学習指導要領の「指導計画の作成と内容の取扱い」についても、「各学年の内容の指導については、必要に応じて当該学年の前後の学年で取り上げることもできる」となっている。

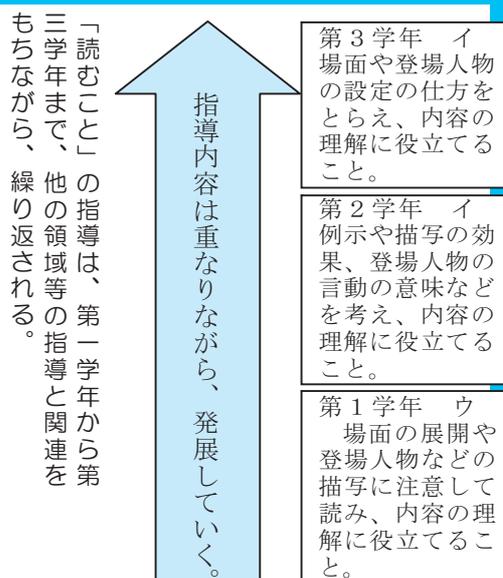
また、生徒の実態に応じて、各領域の指導事項及び言語活動例、さらには〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕を関連付けて指導内容を作成する必要がある。

以上のような国語科の特性を踏まえ、学習指導要領の指導事項の内容を基軸として考え、より一層内容を深める発展的な教材や指導法の開発を進めた。

・教材及び言語活動について

国語科においては、教材として用いられる素材や取り上げた言語活動によって、指導事項が同じであっても発展的な学習となることがある。例えば、第2学年の「登場人物の言動の意味などを考えて読む」という指導事項を、「ごんぎつね（新見楠吉）」や「故郷（魯迅）」の教材においても指導することは可能であるが、これらの2作品では、登場人物の言動の意味、作品の使用語彙、表現、構成、登場人物の数や関係性等、様々な要素が異なっているため、指導する内容等は大きく異なる。言語活動においても、例えば「新聞を作る」活動であったとしても、生徒が作成する新聞にどこまでの完成度や要素を求めるかによって授業の有

図 指導内容の系統 例：読むこと



り様は異なってくる。したがって、教材や言語活動の選択も発展的な教材や指導方法の開発の視点となる。

これらの国語科の特性を踏まえ、発展的な教材・指導方法の開発を行った。

○ 国語科において開発した発展的な学習を推進するための指導資料

国語科において開発した発展的な学習を推進するための指導資料は、次の5事例である。

- ① 内容・場面・相手に合わせた音読を身に付けよう
言語活動 音読をする 第1学年 [話すこと・聞くこと]
- ② 文化祭のお知らせを出そう
言語活動 行事を知らせる文章を書く 第2学年 [書くこと]
- ③ 俳句を読み、推敲しよう
言語活動 俳句を推敲する 第3学年 [読むこと]
- ④ もし、平安貴族として生まれたら
言語活動 古典的文章を読む 第3学年 [読むこと]
- ⑤ 司会の方法を身に付けよう
言語活動 司会を立てて話し合う 第3学年 [話すこと・聞くこと]

○ 開発した発展的な学習における事例の概要

① 内容・場面・相手に合わせた音読を身に付けよう（P. 10）

音読に関する指導事項は小学校第6学年までしかない。しかし、中学生になれば、さらに音読する場面や内容が広がる。そこで、本事例では、既習事項を踏まえ、中学校第1学年で、相手や目的に応じた音読を身に付ける。

② 文化祭のお知らせを出そう（P. 20）

手紙を書いたり通知文を書いたりする学習は、それぞれ別々に行われる。しかし、実生活では相手や目的に応じ、文種を選択しなければならない。そこで、本事例では、既習事項を踏まえ、同時に複数の文種を書くことによって、相手意識を深める。

③ 俳句を読み、推敲しよう（P. 28）

詩歌の感想を書くことは第2学年で、小説等の批評は第3学年で学習するが、韻文を読んだり批評したりする具体的な技術・知識等については、指導事項に記述がない。したがって、本事例では、俳句を推敲することによって、より深い読み取りを行う。

④ もし、平安貴族として生まれたら（P. 36）

小学校においては、古文や漢文、近代以降の文語調の文章を取り扱う。そこで本事例では、同じテーマを扱った複数の古典的文章を読み比べることによって、より深い読み取りを行い、古典の世界に親しむ。

⑤ 司会の方法を身に付けよう（P. 42）

話合いが効果的に展開するための進行の仕方については第3学年で学習する。本事例では、習熟度別少人数指導の発展コースで、意見が対立する状況における司会の進め方を学習し、その後、一斉指導において実際に話合いを行う。

第1学年 単元「状況に応じて話す」（話すこと・聞くこと）

内容・場面・相手に合わせた音読を身に付けよう

1 事例の概要（4時間扱い）

(1) 単元について

本単元は、小学校第5学年及び第6学年「C 読むこと」の「ア 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること」を踏まえ、新たに開発した発展的な学習として位置付けた。中学校において、「C 読むこと」の中に音読等の音声言語の指導事項がないため、第1学年「A 話すこと・聞くこと」の「ウ 話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手にわかりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと」の単元で取り扱う。他者に向かって話すとき、相手や場に応じた話し方を考えて話すものである。本単元では自分がどのように話しているかを振り返り、日本語の特徴を知ることによって「相手や場面、目的に合った話し方」を身に付けさせたい。

(2) 発展的な学習について

本事例は、日本語の特徴を踏まえた音読の仕方や相手、場面や目的に応じた話し方・声の出し方を身に付けることをねらいとした。

2 指導計画の位置付け

- (1) 音読の基礎的・基本的な既習事項を確認し、日本語の特徴を踏まえた音読を行う。（1時間）
- (2) 音声言語の特徴を捉え、異なる相手、場面や目的における模範例を聞き、効果的な話し方とは何かを考える。（1時間）
- (3) 伝えるべき相手や状況、場面に応じて原稿を読む練習を行う。（1時間）
- (4) 相互評価を踏まえて自分の声の出し方を見直す。（1時間）

3 目標

- 相手、場面や目的に応じて、適切に表現しようとしている。
- 相手、場面や目的に応じた話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、語句の選択、言葉遣いなどができる。
- 音声言語の特徴について理解する。

4 学習活動の展開

	○主な学習活動 ・ 学習内容	□指導上の留意点 ★指導事項 ●資料等 ◆評価 [方法]
第一時	<p>①学習課題と学習の流れを確認する。</p> <p>T：文章に合った声の出し方を身に付けよう！</p> <p>②既習事項を確認する。</p> <p>T：小学校のときに、音読する際に気を付けたことは何ですか？</p> <p>S：教室の後ろの人にも声を届かせるように読むことです。</p> <p>S：感情を込めて読むようにします。</p> <p>T：その通りですね。でも、隣の人に読み聞かせをするときも、教室の後ろの人に声を届かせるように読みますか？</p> <p>S：状況に応じた声の大きさと読みます。</p> <p>T：説明的な文章を読むときも感情を込めますか？</p> <p>③日本語の特徴を踏まえた発音練習をする。</p> <p>T：では、日本語の特徴は何でしょう。英語と比較して考えてみましょう。</p> <p>S：母音が少ないこと。</p> <p>S：述語が最後にあり、意味を決定すること。</p> <p>S：単語に強弱はないが、高低のイントネーションがあること。等</p> <p>S：文節があり、言葉の順番の規則が英語に比べて緩やかなこと。</p> <p>T：そうですね。それらの特徴から考えて、話すときや音読するとき、相手に意味を理解させるために気を付けることは何ですか。</p>	<p>★相手、場面や目的に応じた話す速度や音量・言葉の調子や間の取り方・語句の選択、言葉遣いなどができるように適切な音読をする。</p> <p>□英語を例に挙げ、語順、助詞の有無、文節、単語内に強弱はないが高低があること、母音の少なさ等を気付かせる。</p> <p>□近くの人と相談させることも大切である。</p> <p>★口の形に注意して、母音を明確にして読む。</p> <p>□「母音が少ないことから生じることはなんですか」のように質問を細分化する→同音異義語が多い。</p> <p>◆音声言語の特徴について知る。(話す・聞く能力) [挙手]</p>

	<p>S : 一音一音を明確にして、最後まで、ハッキリと話します。</p> <p>T : そうですね。では、この文をゆっくり一回読んでみましょう。その後で三回早く読んでみましょう。練習してください。</p> <p>例：「お綾や お謝りなさい。」</p> <p>T : 何名かに発表してもらいます。</p> <p>S : 〈発表する〉</p> <p>T : 難しいですね。では、難しい理由は何でしょうか。読み間違いやすい箇所をまず見付けてください。</p> <p>S : 一文の中に二回ある「オ」から「ア」が変わるところでつまずきます。</p> <p>S : 口の形が急に変わるからだと思います。</p> <p>T : では、その部分だけ練習しましょう。「オ→ア、オ→ア、オ→ア」と3回早く言いましょう。</p> <p>T : 日本語の母音は全て、口の形が異なります。したがって、意識的に口の形を変えないと「ア・イ・ウ・エ・オ」が明確に発音されず、聞き取りにくくなってしまいます。</p> <p>T : 「一音一音を明確にして、最後まで、ハッキリと話す」とありましたが、これを聞いてどう思いますか。「ボ・ク・ワ・キ・ノ・ウ・シ・ン・ジュ・ク・エ・イ・キ・マ・シ・タ。」</p>	<p>★早口言葉の困難さの理由は、文に応じて様々である。例に挙げた文は、口の形の急激な変化に伴う難しさであり、口をはっきりと開けないと明瞭に発音できないことに気付かせる。</p> <p>□大切なのは口の形の変化である。音を出すというより、頬の筋肉を使って、口の形を素早く変えるように注意する。</p>
--	---	--

<p>S : ロボットが話しているみたいです。 S : かえって意味が分かりにくいです。 T : なぜでしょうか。 S : 意味のまとまりがないからです。 T : この読み方は分かりやすいですか。 「僕は昨日、新宿へ行きました。」 S : 自立語が聞こえにくいのでよく聞き取れません。 S : まだ、切り過ぎの感じがします。 T : 不自然ですよ。この程度の長さの文ならば一息で読めますね。</p> <p>T : 次に挙げる例文を、全員に聞こえるように、なおかつ意味が分かりやすい自然な話し言葉に聞こえるように練習しましょう。</p> <p>「僕は昨日、朝早く総武線を使って新宿の大きな本屋へ行きました。」</p> <p>T : 次回は、主語・述語や修飾語・被修飾語などの文法の知識や文章構成の知識を活用して、意味のまとまりに注意した読み方について考えていきます。</p>	<p>□文字間隔と行間隔が同じである読みにくい文章を提示することもできる。 □下線部を大きな声で強く読ませる。 □意味を担う自立語が聞こえず、主に語の関係性を示したり、意味を添えたりする付属語だけが聞こえては、意味は理解できない。しかし、分かち書きの影響で、これに近い読み方をする生徒もいる。</p> <p>□一番離れた席にいる生徒に声を届けるように指示する。 □「一息で読むため、声を出す前に十分に息を吸って、最初の音を高い声で出し、文末は下げる」ように助言する。 □他にも、口の形や、視線等にも注意を払い、全員が自信をもって声を出せるまで練習をさせる。 ◆相手、場面や目的に応じて、適切に表現しようとしている。(話す・聞く能力)【観察】</p>
--	---

第二時

T：原稿を黙読してください。

T：主語と述語、修飾語と被修飾語を考えて、意味のまとまりを作ってください。
→「係り受けの分析」を参照

T：「先日行われた生徒総会で議題となった、／ペットボトルのキャップを学校で回収するという提案に／私は賛成します。」のように意味のまとまりに注意して読む練習をしましょう。

T：その後の文も全て一文目になって、意味のまとまりを考え、書き込みをしましょう。

T：では、練習をしましょう。

T：次回は、文章構成から読み方を考えましょう。

★意味のまとまりで区切って読む。

例：「先日行われた生徒総会で議題となった、ペットボトルのキャップを学校で回収するという提案に私は賛成します。」

□ワークシートに書き込ませることで、視覚に訴え、理解できるようにする。

□さらに細かい分け方も可能であるが、音読に必要な程度に留めておく。

□十分に黙読した後に音声化させる。

□どの程度、間を開けると意味が理解しやすいかをペアワーク等で確認させる。

◆音声言語の特徴について理解する。(話す・聞く能力) [ワークシート]

□息を素早く吸い、息継ぎに気を付けることと、口の形については、その都度、注意して意識化させる。

◆相手、場面や目的に応じて、適切に表現しようとしている。(国語への関心・意欲・態度) [観察]

T：今回は、文章構成から考えて、間の取り方・読む速度等を考えて読む練習をします。

T：原稿を黙読してください。

T：この文章を、体育館でマイクを使って読むことを想定して下さい。何に注意して読めばよいですか。

S：マイクを通すと聞きにくいので、いつもよりゆっくりと明確に話します。

S：聞き手の反応に応じて話します。

S：主張を理解してもらえるように工夫して話します。

T：そうですね。様々な工夫が考えられます。では、どのように音読するのか、その計画を立て、その工夫を原稿に書き込みましょう。

T：書き込みが終わったら、黙読もしくは小さな声で練習し、さらに書き込みを改善してください。

T：次回は実際に体育館で発表をします。

★文章全体の内容を理解して、読み方を考える。

□数回、ゆっくりと文章の流れに留意しながら黙読させる。

□具体的に場面や様子を想像させることが大切である。

●△聞き手の反応を予想して考えた間の取り方

▲読み手の意図を明確にした間の取り方や読む速度

□机間指導をしながら、個に応じた読み方の支援をしていく。

T：体育館での発表です。皆さんには評価表を渡していますので、その説明を先にします。

T：今回の授業は、同じ文章を、皆さんと同じ中学1年生を対象に行いました。
しかし、相手が異なれば、例えば、小学生や高齢者の方など、使う単語や話し方も異なります。また、文章が物語や詩などでも効果的な伝え方・話し方は異なるでしょう。参考として、アナウンサーの方の文章を読みます。

悲しい物語だからと、今にも泣きそうな悲しい声で読んだり、楽しい話だからとへらへら笑いながら読む、というのでは、聞き手はしらせてしまいます。読み手の表面的な「演技」では、聞き手を物語の世界に連れていくことはできないのです。(中略)

例えば、子どもたちに「レモンをかじったら、すっぱかった」という文を見せ、声に出してもらいます。たいてい、緊張しながらも、一音一音大きな声ではっきり言おうと頑張ってくれます。

次にレモンの映像を見て、その味をイメージしてみます。レモンに包丁を入れたときに立ちのぼる、ツンとした香り。(中略) その状態で、もう一度同じ文を言ってもらいます。すると、あら不思議。声の出し方も抑揚も一変！すっぱさに実感がこもるのです。

T：大切なことは、読む前に、中身をしっかりと理解し、想像することなのですね。

●評価表

★体育館で、マイクを通して意見を述べる。

□評価者は、原稿を見ずに、音声として判断させる。

□評価項目はいくつかあるが、最も大切なことは「聞きやすく、内容が聞き取れたか」という点であることを指示する。

□「声の大きさ」とは、体育館で、マイクを通じた際の「適切な大きさ」という点であることを指示する。

□「間と速度」とは、適切な間の開け方と、意味のまとまりで読むことを合わせたものである。間を開ければ、時間はゆっくりとなるが、場所が不適切であると、かえって聞きにくく意味が不鮮明になる。意味のまとまりで読むと、速いが聞きやすくなる。全て同じ速度で読むと、聞き手の注意が散漫になりやすいことを助言する。

□「明瞭さ」とは、発音の明瞭さである。しかし、文末の助動詞まではっきりと明確に言うことは、かえって意味を不鮮明にする。

◆相手、場面や目的に応じて、適切に表現しようとしている。(国語への関心・意欲・態度) [観察]

◆相手、場面や目的に応じた話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、語句の選択、言葉遣いなどができる。(話す・聞く能力) [観察、録音]

（ ）（組）（番 名前）（ ）

先日行われた生徒総会で議題となった、ペットボトルのキャップを学校で回収するという提案に私は賛成します。

私が賛成する理由は大きく二つあります。

一つは、エコにつながるということです。ペットボトルのキャップを回収してリサイクルすれば、環境に対する私たちの意識が高まるのではないかと考えました。

もう一つは、病気で苦しんでいる子供たちの助けになるということです。ペットボトルのキャップを集めることで、病気を予防するワクチンを購入する費用にあてるという活動が行われています。そのためには、たくさんのキャップが必要です。学校で回収しているのであれば、気軽に集められると思います。毎日多くの生徒が通う学校だからこそ、たくさん回収できると私は考えます。

以上の理由から、私はペットボトルのキャップを学校で回収するという提案に賛成します。

係り受けの分析

先日行われた生徒総会で議題となった、ペットボトルのキャップを学校で回収するという提案に私は賛成します。

提案に（連用修飾語） 私は（主語） 賛成します。（述語）

ペットボトルのキャップを学校で回収するという（連体修飾語）提案に
先日行われた生徒総会で議題となった、（連体修飾語） 提案に

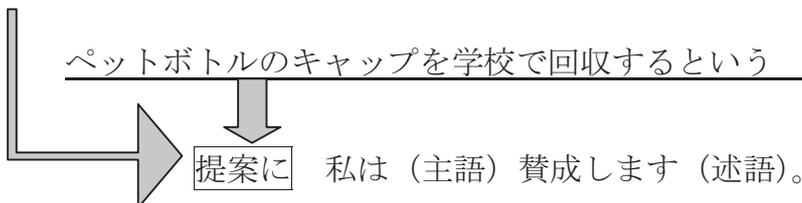
ペットボトルのキャップを（連用修飾語） 回収するという
学校で（連用修飾語） 回収するという

先日行われた生徒総会で（連用修飾語） なった、
議題と（連用修飾語） なった、

先日行われた（連体修飾語） 生徒総会で

先日行われた生徒総会で議題となった、

ペットボトルのキャップを学校で回収するという



△聞き手の反応を予想して考えた間の取り方

先日行われた生徒総会で議題となった、ペットボトルのキャップを学校で回収するという提案に私は賛成します。「なぜだろう?」

私が賛成する理由は大きく二つあります。「二つとは何だろう?」

一つは、エコにつながるということです。「なぜ?」ペットボトルのキャップを回収してリサイクルすれば、環境に対する私たちの意識が高まるのではないかと考えました。

もう一つは、病気で苦しんでいる子供たちの助けになるということです。「これが二番目の理由か。でも、なぜ?」ペットボトルのキャップを集めることで、病気を予防するワクチンを購入する費用にあてるという活動が行われています。「そうなのか」そのためには、たくさんキャップが必要です。学校で回収しているのであれば、気軽に集められると思います。毎日多くの生徒が通う学校だからこそ、たくさん回収できると私は考えます。「なるほど」

以上の理由から、私はペットボトルのキャップを学校で回収するという提案に賛成します。「賛成する理由は理解した」

▲読み手の意図を明確にした間の取り方や読む速度

【最初に聞き取れなかったら、その後の話が理解できないので、大きな声でゆっくりと言おう】

先日行われた生徒総会で議題となった、ペットボトルのキャップを学校で回収するという提案に私は賛成します。

【ここで、間を開け、「二つ」を強調して言おう】

私が賛成する理由は大きく二つあります。

【引きつけるために間を開ける】

【最初の文は、ゆっくりと明確に】

一つは、エコにつながるということです。ペットボトルのキャップを回収してリサイクルすれば、環境に対する私たちの意識が高まるのではないかと考えました。

【引きつけ、また、明確にするために間を開ける】

【最初の文は、ゆっくりと明確に】

もう一つは、病気で苦しんでいる子供たちの助けになるということです。ペットボトルのキャップを集めることで、病気を予防するワクチンを購入する費用にあてるという活動が行われています。そのためには、たくさんキャップが必要です。学校で回収しているのであれば、気軽に集められると思います。毎日多くの生徒が通う学校だからこそ、たくさん回収できると私は考えます。

【最後に印象付けるために、はっきりと強く】

以上の理由から、私はペットボトルのキャップを学校で回収するという提案に賛成します。

評価表 評価者【組番・氏名】

平成 年 月 日 校時 場所 (体育館)
 対象 (中学一年生) 内容 (生徒総会に対する意見表明)

書き込み用

先日行われた生徒総会で議題となった、ペットボトルのキャップを学校で回収するという提案に私は賛成します。

私が賛成する理由は大きく二つあります。

一つは、エコにつながるということです。ペットボトルのキャップを回収してリサイクルすれば、環境に対する私たちの意識が高まるのではないかと考えました。

もう一つは、病気で苦しんでいる子供たちの助けになるということです。ペットボトルのキャップを集めることで、病気を予防するワクチンを購入する費用にあてるといふ活動が行われています。そのためには、たくさんのキャップが必要です。学校で回収しているのであれば、気軽に集められると思います。毎日多くの生徒が通う学校だからこそ、たくさん回収できると私は考えます。

以上の理由から、私はペットボトルのキャップを学校で回収するという提案に賛成します。

○発表者名 ()

- ・ 声の大きさ (◎・○・△)
- ・ 間や速度 (◎・○・△)
- ・ 明瞭さ (◎・○・△)

総評

(他に気付いた点・良かったこと、直した方が良い点など)

○発表者名 ()

- ・ 声の大きさ (◎・○・△)
- ・ 間や速度 (◎・○・△)
- ・ 明瞭さ (◎・○・△)

総評

○発表者名 ()

- ・ 声の大きさ (◎・○・△)
- ・ 間や速度 (◎・○・△)
- ・ 明瞭さ (◎・○・△)

総評

・

第2学年 単元「目的・場に応じた書き分け」（書くこと）

文化祭のお知らせを出そう

1 事例の概要（3時間扱い）

(1) 単元について

本単元は、領域「B 書くこと」の指導事項「イ 自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を工夫すること」及び「ウ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと」を踏まえ、発展的な学習として位置付けた。また、言語活動として「目的・対象・場に応じた文章を書く言語活動」を設定する。具体的には、「文化祭の案内」というテーマで、「地域」「お世話になった小学校の担任の先生」「近隣の小学校の児童」という異なる対象に向け、さらに三種類の異なる文章の形態を用いて文章を書き分けるという単元である。

(2) 発展的な学習について

文章を書く際には、その目的、相手、内容、そしてどのような場において用いられるのかを意識することが重要である。そこで本単元では、「文化祭の案内」を作成するという共通した目的のもとで、「地域」「お世話になった小学校の担任の先生」「近隣の小学校の児童」という異なる対象に、さらに「通知文」「手紙」「リーフレット」という三種類の文章の形態で書き分けるという学習活動を設定した。生徒たちは一種類の対象や文章の形態で文章を書くことは既に経験している。しかし、本単元では三種類書き分けることで、言い回しや語句の使い方などに関してどのように伝え方が異なってくるのかを考えさせる。相手意識をより明確にもたせることで表現力の技術を磨くことができる。

さらに、今回は最終的に書写の学習との関連をもたせ、書体や色、大きさなども含めてどのように字を書き、どのように配置すれば、より効果的に内容が伝わるのかを考えさせる。国語の授業と書写の授業とは切り離されて考えられることが多かったが、発展的な学習では書写の指導内容を踏まえ、目的意識と相手意識を明確にした書写を行わせたい。

2 指導計画の位置付け

- (1) 対象と形態が異なる、三種類の案内について、それぞれの特徴を考える。（1時間）
- (2) 三種類の案内を作成する。（2時間）

3 目標

- 文字の特徴や美しさを捉え、調和のとれた文字を書き、日常生活に書写を生かそうとしている。
- 相手や目的、場に応じて、文章の形態、構成、展開に違いがあることを理解し、表記や語句の用法、叙述の仕方などに注意して書き分けることができる。

4 学習活動の展開

	○主な学習活動 ・学習内容	□指導上の留意点 ★指導事項 ●資料等 ◆評価 [方法]
第一時	①単元の目標と学習の流れを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">対象と文章の形態による違いを理解する。</div>	□本単元三時間の学習内容について概要を説明し、学習全体の見通しをもたせる。
	②対象と形態が異なる、三種類の案内（文化祭）について、それぞれの特徴を考えワークシートにまとめる。 1 地域に配布する通知文 2 お世話になった小学校の担任の先生に出す手紙 3 近隣の小学校の児童（5、6年生）に渡すリーフレット ③グループ内で話し合い、意見の交換を行う。 ④グループで出た意見を、クラスに全体に発表する。 ⑤案内に入れる項目を確認する。 ・日時 ・場所 ・演目 など ⑥本時の学習について振り返る。	●ワークシート ◆相手や目的、場に応じて、文章の形態、構成、展開に違いがあることを理解する。（書く能力）[ワークシート] □行事の案内文は1年次に、手紙文は2年次の本単元までに、既に学習を終えているので、学習活動に入る前に、既習事項について簡単に振り返りを行うとよい。 □それぞれの案内について、具体的にどのような筆記用具や字体、言葉遣いが効果的なのか、考えさせる。 □地域への通知文は、見たことがない生徒も多いと思われるため、実際の例（学校から出した運動会の案内など）を提示して、イメージをもたせるとよい。 □他の人の意見を聞き、「思いつかなかった新しい意見があれば書きとめる。意見を交流し、考えを深める」ということを助言する。

①前時を振り返り、本時の目標を確認する。

通知文・手紙・リーフレットをそれぞれの対象によって書き分ける。

T：前回の授業では、相手や文書の形態によって文章の書き方が異なることを理解しましたね。

S：相手の年齢や立場によって、使う言葉や内容は全く異なるのよね。

S：そう、自分が相手を知っているかどうかにもよるよ。小学校の先生には敬語を正しく使う必要がある。小学生には、少し柔らかい表現の方がいいね。

S：目的は案内を出すことより「文化祭に来てもらう」ことなのだから、読んだ相手が行きたくなるような魅力のある書き方をすることが一番大事よね。

T：それでは、前回の授業で確認した特徴や違いに気を付けながら、実際に文化祭の案内を作ってみましょう。

②三種類の文化祭の案内を作成する。

- 1 地域に配布する通知文
- 2 お世話になった小学校の担任の先生に出す手紙
- 3 近隣の小学校の児童（5・6年生）に渡すリーフレット

③本単元のふりかえりを行う。

●時侯の挨拶例などが載っている資料集など。

◆相手や目的、場に応じて、文書の形態、構成、展開に違いがあることを理解し、表記や語句の用法、叙述の仕方などに注意して書き分けることができる。

（書く能力）[作品]

□書写との関連をもたせるため、今回はパソコンは使用しない。

□前時で考えた必要な筆記具を持ってくるようあらかじめ指示しておく。

□下書きの時点で提出させ、表記や語句の用法等を確認をする。また、文字の配置やレイアウトについても助言する。

□リーフレットにはイラストを載せてもよいが、あくまで補足的なものとして捉えさせる。

□清書用に、次のものを準備する。

- ・白い用紙（通知用）
- ・便せんと封筒（手紙用）
- ・色のついた用紙（リーフレット用）

◆文字の特徴や美しさを捉え、調和のとれた文字を書き、日常生活に書写を生かそうとしている。

（国語への関心・意欲・態度）[作品]

□完成した作品を生徒同士で評価し合う。

□完成後、優秀な作品を多数、増刷して配布するなど、作品を実際に使用することが望ましい。

★相手や目的、場に応じて文章を効果的に書き分ける。

■文化祭の項目（実際の例が使用できない場合に用いる。）

1 日時 平成24年10月27日（土）
午前9時から午後3時まで

2 場所 大江戸中学校 体育館

3 演目

【午前の部】

- 1 生徒会長挨拶
- 2 校長挨拶
- 3 生徒会からの諸注意
- 4 ダンス部発表
- 5 校内弁論大会 学年代表スピーチ
- 6 合唱部合唱
- 7 第1学年 学年劇
(昼食休憩)

【午後の部】

- 8 吹奏楽部演奏
- 9 第2学年 学年劇
- 10 手話部発表
- 11 第3学年 学年劇
- 12 校歌斉唱
- 13 講評

4 注意事項

- ・車を止められる場所がないので、徒歩か自転車で来てください。
- ・自転車は、校庭の南側に駐輪スペースがあるのでそこに停めてください。
- ・スリッパを持ってきてください。学校では用意していません。
- ・午後の部は1時から開始します。
- ・上演中は、携帯電話をマナーモードにするか電源を切り、私語をつつしんでください。
- ・上演中は、フラッシュ撮影はやめてください。

5 ワークシート

第一時で用いるもの。それぞれの案内について、具体的にどのような筆記用具や字体、言葉遣いが効果的なのか、考えさせる。

■ 三種類の文章について、特徴や違いを考えよう

小学校の児童 (五・六年生)	小学校の 担任の先生	地域	対象
レットフ	手紙	通知文	形態
・口調にかける。 ・話しやすい。 ・難しい漢字や説明を入れない。 ・十分満足(A)。 ・楽しそう(文面)にする。 ・小学生が来たくなるように。 ・「おおむね満足(B)」	・沿って書く。 ・頭語や時候の挨拶、近況などを ・正しい敬語を使う。 ・十分満足(A)。 ・「おおむね満足(B)」 ・ある程度親しい間柄だとして ・も礼儀を考えた文面にする。	・「前文の挨拶等を正しく書く。」 ・「記」の後、事に柄を列記する。 ・など順や配置に気を付ける。 ・「十分満足(A)」 ・正しい敬語を使う。 ・「知らない多くの人に読まれる ・ことを考えた文面にする。」 ・「おおむね満足(B)」	書く上で気を付けること
・色鉛筆など ・同じペンや ・たが理由 ・た紙が立 ・色が使い	・黒いペン ・白い便箋	・黒いペン ・白い紙	筆記用具や紙
・グレタリン ・大きさを配 ・置き変え ・立たせる。際	・丁寧な見 ・やすい文字 ・で書く。	・丁寧な見 ・やすい字体 ・で書く。	字体
一枚ずつ配布 近隣の小学校 児童一人	一通	各自治会に回 覧用として十 枚ずつ配布	枚数

6 生徒作品例

【地域への通知文】

文化発表会のご案内

秋の候、皆様方におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。平素は本校教育のため
に温かいご理解・協力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

さて本年度の文化祭は今年末に左記の要領で実施いたします。地域の皆さまには何かご多用のことば存じ
ますが、私達の毎日の学習成果を「見たいぞ」と指導する激励を賜りますようお願いいたします。

平成二十二年十月五日

ご来賓各位
中学校生徒同

記

舞台発表
日 時 十月三十一日(土) 九時～十五時(午後の部 十三時～)
場 所 本校体育館

【小学校の担任の先生への手紙】

拝啓 木々の葉が黄に赤に色づきはじめ秋を感じる季節になりましたか、いか
がお過ごしですか。

小学校を卒業してから、早くも一年半が経りました。僕たちは中学校で毎日
元気に学校生活を送っています。かくいう僕も朝から夜まで部活動に明け暮
れる日々で、所属しているサッカー部のキャプテンとして頑張っています。

さて、僕たちが通っている 中学校では、来月の三十一日に文化
祭が行われます。お忙しいとは思いますが、もしお時間がありましたら是非
見に来ていただければと思います。詳細は同封したプログラムをご覧下
さい。日ごろの練習の成果をご覧いただきたいので、どうぞよろしくお願
いいたします。

それでは、このへんで失礼いたします。どうぞお体を大切に下さって下さい。

九月三十日 敬具

先生

【小学生へのリーフレット】



ワクワクドキドキ！
中学校の文化祭に来てね！



1. 日時 2011年 10月31日(土)
9時から3時まで

2. 場所 中学校の体育館

3. プログラム

【午前の部】 9時から始まり！

1. 生徒会長あいさつ
2. 校長先生のあいさつ
3. 生徒会からの注意
4. ダンス部の発表
5. 校内弁論大会で学年が一番うまい人のスピーチ
※弁論(べんろん)とは、大勢の人の前で自分の意見を発表することだよ
6. 合唱部の合唱
7. 1学年の学年劇

(お昼休み)

【午後の部】 1時から始まり！

8. 吹奏楽部の演奏
9. 2学年の学年劇
10. 手話部の発表
11. 3学年の学年劇
12. 校歌斉唱
13. 講評

4. お願い

- ・徒歩か自転車に来てね。自転車で来る場合は、校庭の両側に止めてください。
- ・スリッパを履いてきてね！
- ・上着中は静かに見てね！

7 指導のポイント

本単元で通知文・手紙・リーフレットという三種類の形式を教えなければならないのではなく、行事の通知文は第1学年で、そして手紙についても第2学年の本単元までに既習していることが前提であることに注意したい。リーフレットは、生徒が普段から見る機会も多く、通知文や手紙と比較しても特徴や注意点を考えることは容易である。「文化祭の案内をする」という一つの目的のもとでも、相手によって、そして形式によって書き方は全く異なる。相手との親密度、そして発行される部数、さらにはどのようなシチュエーションで読まれるのかを考えるのが「相手意識をもつ」ということである。

第3学年 単元「俳句を批評し、推敲する」（読むこと）

俳句を読み、推敲しよう

1 事例の概要（5時間扱い）

(1) 単元について

本単元は、領域「C 読むこと」の指導事項「ア 文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むこと」及び「ウ 文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること」を踏まえ、発展的な学習として位置付けた。言語活動としては、「ア 物語や小説などを読んで批評すること」を設定する。具体的には、俳句を分析的に読み、批評を通してより効果的な語句や表現について読み取らせる単元である。

(2) 発展的な学習について

『批評』とは、対象とする物事や作品などについて、そのもののよさや特性、価値などについて、論じたり、評価したりすることである。物語や小説を適切に批評するためには、文章を主観的に味わうだけでなく、客観的、分析的に読み深める力が求められる」（中学校国語指導要領解説）とある。

指導事項では、「構成や展開、表現の仕方について評価すること」までしか求めている。そこで本事例は、俳句を批評することを基礎的・基本的な学習とし、批評する際に考え、話し合われたことを活用して、批評した俳句を推敲することを発展的な学習とする。俳句や詩などの韻文には特有の表現技術が用いられているため、表現技術に関する知識がなければ作品によっては読むことは困難である。

そこで本事例では、俳句を分析的に読み取る力を身に付けさせていく。具体的には、俳句を批評し、推敲させることによって、より効果的な語句や表現について読み取らせる。

2 指導計画の位置付け

- | | |
|---------------------------------|-------|
| (1) 分析手法を学習し、それを活用して俳句を読み、批評する。 | (3時間) |
| (2) 批評を受け、俳句を推敲する。 | (1時間) |
| (3) 推敲の結果を踏まえて、俳句の鑑賞を発表する。 | (1時間) |

3 目標

- 批評したことに基づいて、俳句をよりよく書きかえようとしている。
- 俳句における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むことができる。
- 俳句を読み比べるなどして、表現の仕方について批評することができる。
- 俳句を批評した結果に基づいて、各自の読み取りに応じた、より効果的な語句や表現について自分の意見をもつことができる。
- 切れ、隠喩、体言止め、係り結び、リズム、韻等の俳句に用いられる修辞技法について理解する。

4 学習活動の展開

	○主な学習活動 ・ 学習内容	□指導上の留意点 ★指導事項 ●資料等 ◆評価 [方法]
第一時	<p>① 単元の目標と学習の流れを確認する。</p> <p>② 俳句や短歌、詩に適用しやすい分析の観点を、俳句を実際に分析しながら学ぶ。</p> <p>T : (板書する。「閑 (しずか) さや岩にしみ入る蟬の声」) 季語と季節は何ですか。</p> <p>S : 季語は「蟬」で、季節は「夏」です。</p> <p>T : 切れているところはどこですか？</p> <p>S : 「閑さや」です。</p> <p>T : そこで切れていると思うのはなぜですか。切れ字以外の、内容に関する理由をグループで話し合ってから発表しなさい。</p> <p>S : そこで2文に分けられます。</p> <p>S : 意味がつながりません。</p> <p>S : 倒置法で解釈できます。等</p> <p>T : そこに意味の隙間がありますね。その空間は我々読む者が埋めなければなりません。では、これから少しずつ考えていきましょう。</p> <p>T : 表現されている、五感で捉えられるものを挙げなさい。</p> <p>S : 岩、蟬……</p> <p>T : 蟬は見えますか？</p> <p>S : 見えます。</p> <p>S : 見えません。 蟬の声</p> <p>T : では、「岩」はどのような岩ですか？</p> <p>S : 大きい。汚れている。苔が生えている。</p> <p>T : なぜですか？</p> <p>S : 蟬がたくさんいるようなところなので、木立の中にあるから。たくさん声を吸収できそうだから。等</p> <p>T : 蟬の声はどのような鳴き声ですか？</p> <p>S : ……</p>	<p>□本単元の学習内容について概要を説明し、学習全体の見通しをもたせる。</p> <p>★俳句の形式的な約束事や特徴を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有季定型 ・切れ字 <p>★分析、解釈の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「切れ」の意味 ・句から受ける印象を、五感で捉える。 ・声に出して読むときの音やリズム。 <p>□「切れ」とは、句のイメージを途中、あるいは終わりで断絶することによって読者を立ち止まらせ、別の情景へ非連続的にいざなったり詠嘆の思いをかみしめさせたりするので、切れ字を用いることが多い。</p> <p>□実際には、初めにノートに丁寧に俳句を書き写させ、範読の後に読む練習をし、分析を行わせる。</p> <p>□「蟬の種類」については、科学的な見地からの議論も多いが、一人一人の生徒が自分なりのイメージがもてればよい。</p>

T：言葉に表現されていないことで、五感で捉えられるものを挙げなさい。その際に理由も答えなさい。

(視覚)

S：理由は先程述べましたが、木立です。そして、木々の緑です。

S：夏なので、真昼のまぶしい木漏れ日です。

S：僕は、夕日です。しずかな感じに似合うと思います。

T：他に見えるものはありますか？

(聴覚)

T：蝉の声以外に聞こえるものはありますか？

(触覚)

T：肌に感じるものはありますか？

(嗅覚)

T：匂いを感じるものはありますか？

T：句のつながり以外に分からない点がありますか？

S：蝉の声がするのに、なぜ「閑か」なのか。

S：蝉の声が、「岩にしみ入る」とはどういうことか。

T：今、挙げられたような分からない点が、韻文ではとても大切な部分であることが多いのです。

T：大切なことは、「静」ではなく、「閑」ということです。漢和辞典で意味を調べましょう。俳句では言葉の選び方による違いに敏感になることはとても大切です。

T：それでは、今までの分析を踏まえて、この俳句のイメージやよさをまとめてみましょう。

T：では、次回発表してもらいます。

□書かれていないことについては正答がないので無理に一つに絞らない。各自のイメージに統一感があることが大切である。

□意見が分かれたときが、各自のイメージを深める好機である。時間があれば討論させる。「朝日」という意見も当然あるだろう。

□この俳句を詠んだ人を主人公として、物語を作らせるのも方法の一つである。

□絵やコマ割りで説明するのもよい。

□考えさせるだけでなく、何度も音読をさせる。

□以上の、基本的な俳句の解釈を初めて行う場合は、適宜グループ討論をしたり、解答例を示したりする。

◆修辞技法について理解している。(国語の特質に関する事項) [ノート]

◆話し合いを踏まえ、自分なりにイメージをまとめようとしている。(国語への関心・意欲・態度) [観察]

① 蝉の声のイメージを発表する。

T : 「閑さや岩にしみ入る蝉の声」のイメージを発表してください。

S : 夏の暑い日に、旅に疲れ、男がのんびりと林の中で休んでいる。蝉しぐれが降ってくるように聞こえる。その声が古い寺の周りに無造作におかれているいくつかの苔むした岩に注がれている。ああ、まるで岩にも自分にも蝉の声が染み込んでいくようだ。

T : 近くに古寺があって、岩はお寺に関わるものなのですね。最後に直喩を用いた点がうまいですね。

T : 夕方の設定で考えた人はいますか。

S : …

T : では、これまでの学習を踏まえて、これから提示する俳句のうちから一つ選択して、解釈してみましょう。

② 第1時で、全体で行った解釈作業を一人で行う。

- ・ 季節 ・ 切れ ・ 五感 ・ リズム
- ・ イメージの統一

T : 言葉で直接俳句に表現されていない、自分で想像したことは赤ペンで書きましよう。

→ 参照「5 ノート例」

◆ 文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むことができる。(読む能力) [ノート]

□ いくつかの観点から、異なるイメージの発表が行われるようにする。

※ 観点の例

- ・ 昼か夕方か (時間)
- ・ 物語か批評文か (文種)

□ 生徒が独自に加えたイメージを教師が解説することによって生徒に意識化させるとともに他のイメージと差異化を図る。

< 俳句例 >

- ・ 星空へ店より林檎あふれおり
- ・ 風雪にたわむアンテナの声を聴く
- ・ どの子にも涼しく風の吹く日かな
- ・ 冬菊のまとふはおのがひかりのみ
- ・ 逢いに行く開襟の背に風溜めて

◆ 前時の学習を踏まえて、俳句を解釈しようとしている。(国語への関心・意欲・態度) [観察]

□ 理解しやすいかどうかではなく、魅力を感じたものを選択させる。

□ 俳句を選択した理由を聞く。

□ 分からない言葉については事前に意味を辞書で調べさせたり時間によっては教えたりする。

□ 机間指導をし、つまづき等の把握をする。

①個人で行った解釈について、グループで話し合う。

- ・季節 ・切れ ・五感 ・リズム
- ・イメージの統一

T：同じ俳句を選択した者同士で集まり、意見交換し、解釈を発表します。その際、異なっている点を明確にして、発表してください。

T：では、グループで以下の点から発表してください。

- ・季節 ・切れ ・五感 ・リズム
- ・イメージ

グループでまとまった点、異なっていた点を明確にして話してください。

T：次回は、再び個人の解釈作業に戻ります。グループでの発表を参考にして、自分の解釈を確定してください。

次に、その確定した解釈を基に、俳句を推敲します。自分の解釈からすると、「言葉をこう変えた方がもっと俳句がよくなる」というのがあるかもしれません。

◆文脈における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むことができる。
(読む能力) [話合い]

□意見交換をする際に、以下の点に気を付けさせる。

- ・書かれていることか、いないことか。
- ・書かれていることから推測して、妥当なのか。

□4人から6人くらいの適切な人数になるように同じ俳句でも二つの班にすることもあ

る。
□グループでの話合いを通して、個人の意見が変容することもある。その変容が分かるように、ワークシートやノートに、変更した意見等は文字の色を変えるなどの工夫をする。

□発表中でも、教師が適宜助言し、グループ内での論点を明確にする。

<p style="text-align: center;">第四時</p>	<p>①個人の解釈、特にイメージの確定を行う。 T：朱書した部分を読み直し、自分のイメージを確定した上で、解説文、物語文、絵コンテ等のいずれかの方法を用いて説明できるようにしてください。その作業をする中で、さらに推敲をします。この俳句のこの部分が別の言葉だったら、こう表現されていたらなど、俳句を書きかえるつもりで考えてください。</p> <p>T：次回が最後です。再びグループに戻り、自分の解釈と推敲結果をグループ内で報告してください。</p>	<p>◆俳句を批評した結果に基づいて、各自の読み取りに応じた、より効果的な語句や表現について自分の意見をもつことができる。 (読む能力) [ノート]</p> <p>□推敲し、俳句を書きかえることが目的ではない。また、近現代の名句を中学生が書き直すことは困難である。推敲した結果、変更なしでもよい。大切なことは、俳句の推敲作業を通して、より効果的な語句や表現について読み取らせることである。</p> <p>□書き直す方法の一つとして、自分の生活感覚に合わせるということもある。</p> <p>□俳句をテキストとして純粹に読ませるために、俳人の経歴等の情報は学習後に伝える。</p>
<p style="text-align: center;">第五時</p>	<p>①グループ内で発表し合う。 T：自分の解釈と推敲結果をグループ内で発表します。</p> <p>T：グループの代表例を発表してください。</p>	<p>◆俳句を批評した結果に基づいて、各自の読み取りに応じた、より効果的な語句や表現について自分の意見をもつことができる。 (読む能力) [発表]</p> <p>□評価するのは、どれだけ記述を細かく丁寧に読み、それを踏まえて、イメージをふくらませたかであるので、物語や絵コンテの出来は評価の対象にしない。</p> <p>□推敲し、俳句を書きかえた場合はそれに対して、意見を交換させる。ただし、自分のイメージに応じて変化するので注意する。</p> <p>□最も優れているということではなく、多くのグループメンバーのイメージを反映し、うまく伝えられるという観点で選ばせる。また、推敲に関する議論のやり取りも発表させる。</p>

◆参考（解釈例）

○「星空へ店より林檎あふれおり」橋本多佳子

季語：林檎（秋）

果物屋、または八百屋の店先にうずたかく積まれているりんごと澄んだ満天の星の夜空との対比がユニークである。「星空へ」の「へ」としたことによって、りんごが（おそらく真っ赤であろう）夜空に向かい、まるで星の一員になろうとしているかのように読める。

○「風雪にたわむアンテナの声を聴く」山口誓子

季語：風雪（冬）

雪をとまなっている強い風が吹いている。そのためアンテナが弓なりに曲がり、音を立てている。自然の厳しさと孤独を想像することができる。

○「どの子にも涼しく風の吹く日かな」飯田龍太

季語：涼しく（夏）

複数の子供がいることと、涼しい風が吹いていることしか表現されていない。しかし、その分、読者が自由に創造の翼を広げられる句である。平和で、爽やかな一小景である。

○「冬菊のまとふはおのがひかりのみ」水原秋桜子

季語：冬菊（冬）

「菊」であると秋の季語である。秋には多くの花が咲くが、大方の花が散った後にまだ咲き続けている小ぶりの菊の様子を描いている。冷たくなっていく大気の中で、「まとっているのは自分の光だけである」と表現したことによって、凜とした美しさが表現されている。

○「逢いに行く開襟の背に風溜めて」草間時彦

季語：開襟（シャツ）（夏）

開襟（シャツ）とは、ネクタイを付けずに着る、前えりを折りえりにしたシャツであり、夏に着るものである。開いたえりから風が吹き込み、背中がふくらんでいる。自転車にでも乗って、会いたい人のもとへ急いでいる様子が目に浮かぶ。

5 ノート例

○「逢いに行く開襟の背に風溜めて」草間時彦

季節……夏（開襟）

切れ……逢いに行く／

五感 ※想像したことは朱書き

・ 視覚 開襟シャツ、開襟シャツの背中が膨らんでいる様子。

白いシャツ、青い空、白い雲、走る

車

・ 聴覚 風を切る音、車の音、息遣い

・ 嗅覚 排気ガス

・ 味覚 なし

・ 触覚 正面から受ける風、汗、ペダルを踏

む感覚

◇イメージ（物語風）

好きな人がいる。隣町に住んでいる。夏休みの部活動の練習が終わり、大急ぎで逢いに行く。国道のような広い道を自転車で走る。真夏の空は青く、真っ白な雲が浮かんでいる。少しでも早く逢いたい。少しでも早く逢いたい。立ち漕ぎする。

汗を吹き飛ばす爽やかな風を顔に体を受ける。開襟シャツの襟口から風が入り、背中が大きく膨らんでいるのが分かる。まるで僕の心のような。ペダルが重くなる。でも、早く逢いたい。

◆推敲過程

開襟↓Yシャツ 理由・「開襟シャツ」を知らないし、Yシャツの方が白さ際立つ。

・ 意見 「開襟」でないと風が入らないのではないか。

それだと理屈っぽい。等

第3学年 単元「文章の内容を理解し自分の考えをもつ」（読むこと）

もし、平安貴族として生まれたら

1 事例の概要（4時間扱い）

(1) 単元について

本単元は、領域「C 読むこと」の指導事項「エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと」及び「オ 目的に応じて本や文章などを読み、知識を広げたり、自分の考えを深めたりすること」の発展的な学習の単元であり、言語活動として、「一つのテーマの下で複数の古典作品を読み深める言語活動」を設定した。具体的には、学習者と同じ十代前半の子供が主人公になっている古典「源氏物語（桐壺）」、「堤中納言物語（虫めづる姫君）」、「とりかへばや物語」、「更級日記」を読み、平安時代の貴族社会に生まれた子供たちの生活と、現代の自分たちの生活と比較しながら読み取っていく。

(2) 発展的な学習について

古典を読む上では、その文章を書いた作者の人物像や、時代背景の理解が欠かせない。古典の文章を理解するためには、一つ一つの文の意味を理解するだけでは不十分であり、その文学作品を生んだ、文化そのものの理解が必要となる。

そこで本事例は、様々な古典作品の中から、生徒たちと同じ年代の主人公が描かれている場面を抜粋し、一つのテーマを深めるために複数の文章を読むという発展的な学習活動を設定した。「源氏物語」、「堤中納言日記」、「とりかへばや物語」、「更級日記」という古典を読み、同年代の平安貴族の子供たちがどのような生活を送っていたのか、現代の自分たちの生活と比較しながら読み取っていくことをねらいとした。また、当時の文化について理解を深め、古典をより身近に感じさせ、親しみをもたせたい。

2 指導計画の位置付け

- | | |
|-------------------------------------|-------|
| (1) 四つの古典作品を読み、気付いたことや疑問点を挙げる。 | (1時間) |
| (2) グループに分かれ、一人の登場人物について深く考察する。 | (2時間) |
| (3) それぞれの人物についてグループ発表を行い、簡単な意見文を書く。 | (1時間) |

3 目標

- 古典の内容について関心をもち、登場人物の境遇や気持ちを理解しようとしている。
- 古典の文章から、当時の人々のものの見方や考え方について捉え、現代の自分たちの生活と比較し、自分の考えをもつことができる。

4 学習活動の展開

	○主な学習活動 ・ 学習内容	□指導上の留意点 ★指導事項 ●資料等 ◆評価 [方法]
第一時	<p>①単元の目標と学習の流れを確認する。</p> <p>②歴史の教科書に書かれている平安時代の様子について調べる。</p>	<p>□本単元の学習内容について概要を説明し、学習全体の見通しをもたせる。</p> <p>●社会の教科書、資料集</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 作品の背景となる「平安時代」について復習をする。 </div> <p>③当時の貴族の同年代の子供たちがどのような生活を送っていたのかを予想する。ワークシートに個人の意見を記入した上で、グループで話し合う。</p> <p>T：平安時代と聞いて、まず思い浮かぶのはどのようなことですか。</p> <p>S：藤原氏。摂関政治。</p> <p>S：私は十二単のお姫様が思い浮かぶわ。</p> <p>S：去年、学習した、清少納言の枕草子も記憶に新しいよね。</p> <p>T：では、当時の貴族の子供たちは、どのような生活を送っていたのでしょうか。</p> <p>S：うーん。思いつかないわ。そう考えてみると、歴史の教科書に登場するのは皆、大人ばかりよね。</p> <p>S：僕たちのように、学校で勉強したり、思いっきり部活で汗を流したりしたとは思えないし。</p> <p>S：当時の子供たちが書いた日記のようなものが残っていれば分かるのにね。</p>	<p>◆意見を交流し考えを広げようとしている。(国語への関心・意欲・態度) [ワークシート・観察]</p> <p>●ワークシート</p> <p>□教科書の記述にある文化や風俗、当時の社会状況などから予想して考えさせる。</p> <p>□これまでに学習した平安時代の古典作品を思い出させる。</p> <p>★目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げる。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 四つの古典作品を読んでいく。 </div> <p>④ 十代の少年少女が登場する、四つの古典作品を読んでいく。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 「源氏物語 (桐壺)」 「堤中納言物語 (虫めづる姫君)」 「とりかへばや物語」 「更級日記」 </div> <p>・原文を音読をする。</p>	<p>◆古典の内容について関心を持ち、登場人物の境遇や気持ちを理解しようとしている。(国語への関心・意欲・態度) [観察・ワークシート]</p> <p>●原文、現代語訳の拡大資料</p> <p>●場合に応じて実物投影機など</p> <p>●ワークシート</p> <p>□出典の作品について、最初にそれぞれ簡単に説明する。</p>

	<p>・現代語訳を読み、それぞれの人物について分かったこと、平安時代の文化や習慣・社会状況について気付いたこと、内容について疑問に思ったことをメモしていく。</p> <p>⑤ 疑問点が書かれた付箋紙を、登場人物ごとに分けておく。</p>	<p>□いずれも部分抜粋のため、背景や登場する人物について簡単な解説を行っていく。</p> <p>□原文、現代語訳は拡大して示す。「御簾」や「几帳」などは拡大した画像や資料集を用いて、実物に近いイメージをもたせるようにする。</p> <p>□人物について分かったことと文化や習慣について気付いたことはワークシートに、疑問に思ったことは付箋紙に記入をさせる。</p> <p>★古典の内容について、当時のものの見方や考え方を理解すること。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">第二・三時</p>	<p>① 本時の目標を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>平安時代の子供たちの生活の様子について深く読み取る。</p> </div> <p>② 登場人物ごとに5つのグループに分かれ、それぞれの人物についての詳細なプロフィール・カードを作る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>[項目]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような立場・境遇におかれているのか。 ・どのような生活を送っているのか。 ・どのような性格の人物か。 ・当該人物は、周りの人物からはどのように思われているのか。 ・作品から分かる平安時代の慣習について。 ・付箋紙に書かれた疑問点について。 </div> <p>1 前時で集めた、付箋紙に書かれている疑問点をKJ法で分類する。</p> <p>2 資料の古文からすでに答えが導き出せるものについては、グループで意見を相互に確認し合う。調べなければ分からないものについては、内容に深く関わる疑問から順に優先順位を付け、調べる担当を決める。また、内容に関して、さらに調べておいたほうがよいことはないかグループ内で話し合う。</p> <p>[「源氏物語」のグループの例]</p> <p>S：この文章を読むかぎり、源氏の君は無理矢理、結婚させられているように見えるわ。</p> <p>S：そうだね。懂れているのは本当は藤壺なんだろう。</p>	<p>●プロフィール・カード</p> <p>●KJ法の分類に用いる大きめの画用紙</p> <p>◆古典の内容について関心をもち、登場人物の境遇や気持ちを理解しようとしている。(国語への関心・意欲・態度)</p> <p style="text-align: right;">[観察・ワークシート]</p> <p>◆意見を交流し考えを広げようとしている。(国語への関心・意欲・態度)</p> <p style="text-align: right;">[観察・ワークシート]</p> <p>【源氏物語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主人公：源氏の君 ・帝の皇子（臣籍降下） <p>[ポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当時の成人と結婚の年齢 ・左大臣の「罪なく思しなして（とがめるほどのこともない）」という発言に注目させ、反対に本当はどういった暮らし方がのぞまれていたのかを読み取らせる。 <p>【堤中納言物語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主人公：姫君 ・大納言の姫君 <p>[ポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・化粧やお歯黒など当時の貴族の子女のたしなみ ・異端である姫君の考え方から、当時普通の姫君はどのような考え方をしていたのかを想像させる。

<p>1 五人の登場人物の中で、「入れ替わって平安時代を体験できるとしたら誰にするか？」一人選び、その理由を書く。</p> <p>2 平安時代の同年代の子供たちの生活の様子と現代の自分たちの生活と比較して、考えたことを書く。</p> <p>④ 本単元の学習を振り返る。</p>	<p><input type="checkbox"/>（補助発問）性格が自分と一番似ているのは誰か。</p> <p><input type="checkbox"/>（補助発問）立場や境遇・生活に最も魅力があるのは誰か。</p> <p><input type="checkbox"/>本文をもう一度読み、あてはまる箇所を引用する。</p> <p><input type="checkbox"/>できれば複数の登場人物を比較させて書く。</p> <p><input type="checkbox"/>終わってしまった生徒には、語句の間違いないかどうか確認し、読み返して推敲するように伝える。</p> <p>★古典の内容について、当時のものの見方や考え方を理解する。</p>
--	--

登場人物プロフィールカード



名前： 源氏の君

性別： 男子

作品名：「源氏物語(桐壺)」(紫式部)より

1. どんな立場・境遇におかれて、どのような生活を送っているのか？

天皇の第二皇子(二番目の男の子の子ども)として生まれる。
 十二歳で成人し、結婚している。(「十二にて御元服したまふ」、「引入れの大臣のへざ思したり」)
 藤壺という五歳年上の連れがいて、すでに自分の父である帝の妻になっている。成人しているので、女性と直接顔を合わせて話すことはできない。管絃の宴のときなどに藤壺と琴や笛を合わせたり、もれ聞こえてくるかなかな声を聞くことを心の慰めとしている。(「御遊びのをえり有りへほのかなる御声を慰めにて」)
 本当は妻のいる左大臣家に頻りに足を運ばなくてはならないが、宮中にいれば藤壺に会えるのと、妻がかたい態度を取るので足が遠のきがちになっている。
 身の周りの用意などは、妻のいる左大臣家に世話になっている。(「いとなみかしづきこえたまふ」)

2. どのような性格の人物か？

・本当は左大臣家に行かなくてはならないのに足を運ばないところから、自分の気持ちを優先させ教を運す性格かもしれない。
 ・本当は妻がいるのに他の女性に心を奪われているところから、思いやりが悪く(気の多い)性格だと考えられる。

3. 周りの人物からはどのように思われているのか？

・父である帝からは愛されている。(「この君の御愛慕、いと家へまう(思せど)」)
 ・義理の父である左大臣からは、甘やかされている。「まだ幼いから仕方ない」と大臣に見られており、また身の回りの世話を丁寧に行われているところから。(「五六日さぶらひたまひて〜いとなみかしづきこえたまふ」)

4. 作品から分かる平安時代の常識

・今から比べると、とても早い年齢で結婚している。
 ・十二歳で元服(成人)をしている。
 ・早い年齢から、すでに仕奉をしている。
 ・成人すると、女性と一緒に御宴に入ることができない。
 ・結婚した相手とは一緒に居ない。

5. クラスから出た疑問点への回答

Q. 平安時代は、十二歳で成人していたのか？
 A. 十二歳と決まっておらず、十二歳から十六歳ぐらいまでに成人していた。ちなみに女子の場合は元服ではなく裳着(もぎ)と呼んでいた。
 Q. 源氏の君の妻はどんな人なのか？
 A. 葵の上(あいのけい)といい、源氏の君の四歳年上の女性。源氏の君にうちどけず、よそよそしい態度をとっていた。物の怪に悩まされて二十六歳で亡くなってしまったらしい。

6 指導のポイント

学習指導要領(平成20年3月告示)から小学校に古典が導入されたことにより、中学校では小学校での指導を踏まえ、より一層指導の充実を図っていく必要がある。本単元では、同年代の子供たちが描かれている古典を扱い、そこに登場する五人の少年少女の生活の様子を生徒が自ら読みとっていく発展的な学習とした。

五人の子供たちの人物像を深く追究することをきっかけに、作品理解だけでなく平安時代の子供たちの生活の様子、そして習慣や文化といった時代背景を作品から読み取らせたい。また、本単元では、平安時代に生きる少年少女が主人公となる作品を扱っている。五人は同じ貴族の子女とはいえ、位や生活、おかれている状況が全く異なっており、性格もそれぞれである。生徒たちは主人公たちに対して、同じ十代として共感する部分や相容れないと思う部分も感じるであろう。しかしそう考えること自体が古典への親近感を引き出すきっかけになるに違いない。

また今回の単元は、学習指導要領、指導計画の作成と内容の取り扱いの「3(5)古典に関する教材については、古典の原文に加え、古典の現代語訳、古典について解説した文章などを取り上げること」を踏まえ、資料の現代語訳を基に単元開発を行った。

第3学年 単元「合意形成のための会議」（話すこと・聞くこと）

司会の方法を身に付けよう

1 事例の概要（7時間扱い）

(1) 単元について

本単元は、領域「A 話すこと・聞くこと」の指導事項「ウ 聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分のものの見方や考え方を深めたり、表現に生かしたりすること」及び「エ 話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合うこと」の発展的な学習の単元であり、言語活動として「イ 社会生活の中の話題について、相手を説得するために意見を述べ合うこと」を設定した。具体的には、話し合いの進行技術を習得したファシリテーターを育成し、合意形成のための話し合いを全員に体験させる単元である。

(2) 発展的な学習について

「話し合いは、情報の交換や意見の調整を通して新たな価値を創造したり、一定の合意を形成して物事を決めたりすることを目的として行われる。『互いの考えを生かし合う』とは、それぞれがもっている情報や意見を基にしてよりよい結論を求めることに加えて、ある結論や決定に至った場合にも、少数意見を尊重したり、どこまでが一致してどこからが違うのかを確かめ合ったりすることなどを意味している」（中学校国語指導要領解説）とあり、話し合いの進み具合を客観的に把握すること、話し合いの経緯を振り返ってこれからの展開を考えることを指導することとなっている。

高等学校においては、「すべての参加者が話し合いの経緯を振り返ったりこれからの展開を考えたりすることなど、話し合いの進め方について、指導の工夫をすること」（高等学校国語科学習指導要領解説）が求められている。

そこで本単元は次の2点を発展的な学習として位置付けた。

- ・合意形成を生む会議の進行方法を身に付けた司会者を育成する。会議の参加者の納得を目指すファシリテーション^{*}を身に付けさせる。また、実際の話し合いの場面で必要となる情報の取り出し、関連付け、価値付けの方法を身に付けさせることを発展的な学習とする。
- ・単元の半ばで学級を2コースに分け習熟度別指導をする。A（基礎）コースを会議の土台とも言える多様な意見のまとめ方の習熟を図るコースとし、B（発展）コースを司会者を育成するためのコースとして位置付ける。その後全体での指導に戻る。ファシリテーションを身に付けた司会者による話し合いをすることにより合意形成のための会議の在り方をすべての学習者に体験させることを、発展的な学習とする。

※ファシリテーションの概要については、「7指導上のポイント」及び学習プリント参照。

2 指導計画の位置付け (は発展的な学習の時間)

- (1) 課題解決に向けた話し合いの手順を学ぶ。 (4時間)
- (2) 習熟度別指導 (2時間)
A (基礎) コース…K J法、ブレインストーミングの習熟。ファシリテーションの概要を学ぶ。
B (発展) コース…ファシリテーションの習得 (6名を抽出)
- (3) 話し合いの場面を通して課題解決の方法を身に付ける。 (1時間)

3 目標

- 課題解決に向けて意見を整理しようとしている。
- 聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分のものの見方や考え方を深めたり、表現に生かしたりする。
- 話し合いの場面で必要となる情報の取り出しや、関連付け・価値付けをすることができる。
- 合意形成のための話し合いの進行の仕方を身に付けることができる。

4 学習活動の展開

	○主な学習活動 ・学習内容	□指導上の留意点 ★指導事項 ●資料等 ◆評価 [方法]
第一 ～ 四時	<p>「課題解決に向けて話し合おう」</p> <p>①宣言や提案として取り上げたい課題を決める。(グループ会議①) 例：学級日誌の取扱い 遠足の目的地 部活動の練習割当て ゴミゼロ運動 節電対策</p> <p>②クラス全体で、どのような宣言・提案とするかを決める。 (全体会議①)</p> <p>③共同宣言のための具体案を出す。 (グループ会議②)</p> <p>④全体で提案の内容を決定する。 (全体会議②)</p>	<p>●ワークシート1</p> <p>●付箋、模造紙・ビデオ撮影</p> <p>◆自分が取り組みたい課題を考えようとしている。 (国語への関心・意欲・態度) [ワークシート]</p> <p>◆聞き取ったことから、自分のものの見方や考え方を深めている。(話す・聞く能力) [ワークシート]</p> <p>◆課題解決に向けて、互いの考えを生かしている。 (話す・聞く能力) [観察]</p> <p>●ビデオ撮影</p> <p>□グループ会議の司会者を指名する。第5・6時ではB (発展) 司会者育成コースに出席させる。</p> <p>●記録用紙・模造紙・ビデオ撮影</p> <p>□根拠や意義を明確にさせて全体へ報告する準備をさせる。</p> <p>●ビデオ撮影</p> <p>□司会者には、最初に活動の全体像を確認させる。</p> <p>★根拠を明確にして説得力のある提案をすること。</p> <p>□ブレインストーミング、K J法により具体案をまとめさせる。</p> <p>□要点を簡潔に板書しながら会議を進行させる。</p> <p>★進行の仕方を工夫し、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合うこと。</p>

<p>B（発展コース）</p>	<p>司会の方法を身に付けよう</p>
<p>①前時の話合いの様子から司会方法に関する課題を発見する。</p> <p>T：今日の授業のめあては、司会の方法を身に付けるということです。</p> <p>T：前回の会議の進め方について有効だったことや困ったこと、改善した方がよいことを出し合ってみましょう。</p> <p>S：いろいろな種類の提案が出て、一つに絞るのに苦労しました。</p> <p>S：各班の発表の要点を板書する時間が足りませんでした。</p> <p>S：決定の方法が多数決になってしまったけれど、それでよかったのか不安です。</p> <p>S：次々と意見を吸い上げて司会者自身が話の方向付けをしていました。</p> <p>②ファシリテーションの基礎を学ぶ。</p> <p>T：司会者の一番大切なポイントを言います。それは「自ら進んで意見を整理してはならない」ということです。意外でしょう。プリントに沿って説明をしますので、疑問があったら聞いてください。</p> <p>（以下、学習プリントに沿い指導） →学習プリント参照</p> <p>T：以上がファシリテーションの基礎です。しかし、実際には時間の関係で司会者が中心となって整理をしなければならないことがあります。次の時間には、皆さんから課題として出ている意見の整理の仕方について練習をしましょう。</p>	<p>●ビデオ撮影、プロジェクター、ワークシート2</p> <p>□全体会議①②のビデオを見て進行についての課題を発見させる。（場面を想起させるために5分程度に編集しておく。編集のポイントは以下の<u>振り返りのポイント</u>参照）</p> <p>□グループ会議①②及び全体会議①②のそれぞれの場面を振り返らせる。</p> <p>◆話合いの進行方法を振り返り改善点が発見している。（話す・聞く能力）[ワークシート]</p> <p>□ワークシート2に記入させた後、交流させる。</p> <p>□生徒の気付きがない場合は、その会議場面のビデオを再度見て振り返らせる。</p> <p><u>振り返りのポイント</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き取った要点を素早く板書する技術。 <p>◆話合いの進行について有効な方法が発見している。（話す・聞く能力）[ワークシート・発言]</p> <ul style="list-style-type: none"> ★話の中心を聞き取ること。 ★キーワードを捉えること。 <p>・読みやすい行書を書く技術。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★点画の連続や省略をした行書を書くこと。 <p>・板書の構成、記号、色分けの技術。</p> <p>★事実と意見、根拠と主張、異なる立場の関係付けをすること。</p> <p>●<u>学習プリント</u></p> <p><u>指導内容</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の目的 ・進行技術①～③（学習プリント） ・学習プリントの<u>空欄</u>にあてはまる言葉を考える。 ・会議の最初に個人で意見を書き出させる理由を考える。 →発言が出やすくなる、多面的な発想、本心が言える、一体感が出る ・司会者としての発言方法の基本を押さえる。 <p>◆話合いの進行のための基本技術を理解している。（話す・聞く能力）[学習プリント・発言]</p> <ul style="list-style-type: none"> ★多様な意見から新たな価値を生み出したり合意を形成したりして物事を決める話合いを進行させること。 →多様な意見を引き出す発言 →意見を整理させる発言

発言を素早く受け止めて、要点や関係を分かりやすく板書する技術を身に付けよう

①ファシリテーターとして発言を整理して見やすい板書の書き方を身に付ける。

T：今日は、司会者として素早く意見を受け止めたり整理したりする練習をします。

まず、黒板やホワイトボードを使って素早く要点のメモをする練習です。

初めに、発言者の話すスピードが速い場合です。今から私が話すことの要点を黒板に書きましょう。

中心となる単語は何でしたか。

S：「流行語」と「言葉の使い方」です。

T：他の人の板書のよいところを指摘してみましょう。

S：〇〇さんは、主張と根拠を色や記号を使って見やすくしています。

S：〇〇さんは、読みやすい行書を書いています。四角い文字も大変読みやすいです。

- 学習プリント
- 前時の司会進行技術を振り返り、次時の話し合い（全体会議）で活用することを確認させる。
- 黒板・ホワイトボード・マーカー
- 範読原稿 1
- 範読を聞いて中心となる単語だけ、メモをさせる。聞いた後に 15 秒間、加筆する時間を与える。
- お互いの板書を比べて良いものを確認させる。
- 範読原稿 1 の指導のポイント
- ◆主張と根拠を明確に分けて見やすく板書している。
- ◆読みやすい文字や構成を工夫して板書している。
(書く能力) [板書]
- 前時の学習事項を思い出させる。
- 行書の方法や字形、記号の使い方などを確認させる。
- それぞれの板書を撮影する。
後日、ワークシート 2 に貼付。
- カメラ

合意点を明確にして話し合いを展開しよう

②意見の一致点を明確にしたり話の方向を提案したりする。

T：次に、複数の発言を聞いてから書く練習をします。

T：三人の発言のメモをして、何か気が付いたことはありませんか。

S：Cさんの発言は、理由がよく分かりません。

S：Bさんは、反対していますが、図書室の開室日を増やすメリットに関しては理解しています。

- 3人の発言（範読）を最後まで聞いてから何を言いたかったのかを板書させる。
- 範読原稿 2 の指導のポイント
- それぞれの板書を撮影する。
- 範読原稿 2 ・カメラ
- 後日、ワークシートに貼付。
- 感情的になっている発言に気付かせる。
- 一見対立する意見同士の間的一致点を見付けさせる。
- ◆情報の関連付け、価値付けをしている。
(話す・聞く能力) [板書・発言]

<p>T : 合意点を見付け出してあげると話合いが前に進みそうですね。それでは、〇〇さん、司会者になったつもりで発言をしながら一致している点を黒板に付け足してみましよう。 (以下、一人ずつ活動)</p> <p>T : 次は発言の意図が分かりにくい場合の練習をします。</p> <p>T : この人が言いたかったことは結局何だったのでしょうか。</p> <p>S : 反対意見です。</p> <p>S : 感情を込めるということをどう捉えるかで意見が二通りあると言っているのだと思います。</p> <p>T : そうです。この人は、「読み手の自分なりの感情を込めて読むことは、相手に自分の感情を押しつけることになる」という点を指摘したかったのでしょうか。〇〇さん、司会者として整理をするつもりで発言をしながら板書に書き加えてみましょう。 (以下、一人ずつ活動)</p> <p>T : 今日は、発言を素早く整理して分かりやすく板書する練習と発言の意図が分かりにくい場合の練習をしました。ファシリテーターは「人の話をよく聞くことのできる人を、会議を通して育てる人」とも言われています。次の時間は、学級全体でもう一度話合いをしますので司会の皆さんは、この2時間で学んだことを使って進行管理をしてみてください。</p>	<p>●カメラ</p> <p>◆発言の真意を見付け出し、合意点を明確にするための進行をしている。(話す・聞く能力) [板書・発言]</p> <p>・合意点を見付け出すためのポイント→「なぜ」と問う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>①相手の真意を見付け出す。 ②一致点、不一致点の識別。 ③合意点を探す。</p> </div> <p>□それぞれの板書を撮影する。 後日、ワークシート2に貼付</p> <p>●範読原稿3</p> <p>□話の中心からはずれていると思わせる遠まわしな発言や発表内容を範読する。</p> <p>□それぞれの板書を撮影する。 後日、ワークシート3に貼付</p> <p>□板書のメモをもとに発言者の意図を考えさせる。</p> <p>●カメラ・範読原稿2の指導のポイント参照</p> <p>◆発言の内容や意図を確認して話を展開している。(話す・聞く能力) [板書・発言]</p> <p>□加筆後の板書を撮影する。 後日、ワークシート3に貼付</p> <p>★正しく聞くこと。 ★素早く板書すること。 ★意見を整理すること。 ★意図が分かりにくい発言の要点を捉えること。 ★共通点、合意点を見付け出すこと。</p> <p>◆合意形成のための進行技術を理解している。(話す・聞く能力) [ワークシート]</p> <p>□第5時、第6時を振り返って学んだことをワークシート3に整理させる。</p>
--	---

第七時	合意形成を目指して話し合いをしよう	
	<p>①ファシリテーションを確認する。</p> <p>②話し合いの議題を提示する。 「学級の問題を解決しよう」</p> <p>③話し合いをする。</p> <p>④話し合いを振り返る。</p>	<p>●模造紙、付箋、指示棒、黒板、ホワイトボード、マーカー、ビデオ、カメラ</p> <p>□司会者コースの6名は、二人一組で司会を行わせる。時間により他の二組と交代をさせる。 (司会をしないときはタイムキーパー・記録係)</p> <p><u>合意形成型会議に向くテーマ</u></p> <p>①課題解決</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何か問題があったときの対応策を考える。 ・日常的な問題を根本的に考える。 <p>②目標設定</p> <p>③企画立案</p> <p>④ルール・マニュアルの徹底</p> <p>◆合意形成のための進行技術を理解し実践している。 (話す・聞く能力) [観察・感想文]</p> <p>★合意形成のための進行技術を使って話し合いをすること。</p> <p>□第1時から第4時に行った話し合いと比較しながら会議の進め方について学んだことを次回の会議で生かせるようにする。</p>

5 板書計画 (第五時)

<p>最後に (絶対に忘れずに！)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ やること ・ 担当者 ・ スケジュール 	<p>結論の出し方</p> <p>意見を整理する発言 ※みなさんどうしましょうか。</p>	<p>意見を引き出す発言</p>	<p>雰囲気をよくする発言</p>	<p>合意形成サイクル 進行技術</p>	<p>ファシリテーション⇨合意形成のための</p>	<p>○決定の仕方 ○話の方向付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 色の使い方 ・ 素早さ 	<p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 話の中心 ・ キーワード ・ 行書、字形 ・ 板書の構成 ・ 記号 	<p>改善したい点</p>	<p>よかった点</p>	<p>司会の方法を身に付けよう</p> <p>会議の進め方</p>
---	---	------------------	-------------------	--------------------------	---------------------------	--	---	---------------	--------------	-----------------------------------

6 参考資料

- ・『会議ファシリテーション』の基本がイチから身につく本 釘山健一著
- ・「会議がうまくいく たった3つの方法」 下地寛也著
- ・「感動の会議！ リーダーが会議で『人を動かす』技術」 寺沢俊哉著

7 指導上のポイント

(1) 通常授業との違い

通常は、指導案第1時～第4時。第4時において以下の点で振り返る。

- ・ 話し合いの進行上、どのような点に注意したか。
- ・ 解決する課題と目的を意識して話し合ったか。
- ・ 提案の長所を整理し、最終案に生かしたか。

しかし、社会においては、例えば、議論が紛糾した際には、提案の長所を整理するだけでは参加者全員の合意を得られず、最終案に至らない場合がある。

本事例では、社会に生かせる司会進行技術の基本を身に付けさせる。第5時～第6時においてB 発展コースで合意形成に至るための進行技術を身に付けさせ、第7時において質の高い話し合いを行わせる。

(2) ファシリテーションの概要

①ファシリテーションとは

社会において会議決定しても実際には実行されないという場面が少なからずある。これは、全員の合意が形成されておらず一部の意見だけが通されて決定されていることも一つの要因である。

会議の目的を「〇〇を決める」ことではなく、会議の参加者が「〇〇に納得する」という考えに立った会議の進行スキルをファシリテーションと言う。また、進行役をファシリテーターと呼ぶ。

②指導内容

中学生を対象にしたファシリテーションの指導内容を発達段階を考慮して以下の四点とした。

スキル①「できるだけたくさんの意見を引き出す」方法

- ・ まず一人一人が意見やアイデアを紙に書く → 全員参加 ⇔ 一部の強い人だけの発言防止。

効果
1 脳が活性化
2 一体感
3 上下関係をなくす
4 発言が活発になる
5 思い付きの発言が多くなる
6 多面的な見方ができる
7 本心が言える
8 他人の書いたものを見たい！ →主体性が自然に生まれる

→よい意見よりたくさんの意見。
(ブレインストーミング)
たくさんアイデアを出し合うことで
新たな価値が生まれる。
他者の意見を決して否定しない。

→誰の意見がよいのかを決めるのでなく！
他の意見を聞き合うことで自分の
意見を深めていく。
×今の発言に対してご意見は…
○他に意見はありませんか…

※ このことにより参加者全員が「自分の意見が聞いてもらえた」「自分も参加している」という満足感を得ることができる。

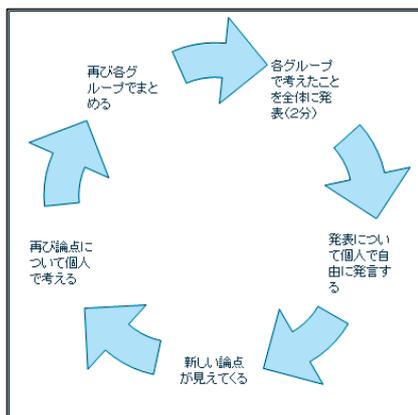
スキル②「参加者に意見を整理させる」～合意点が見付からない場合に～

司会者がまとめ役になるのではなく…

- ・ 皆さん、どうしましょう。
- ・ 「今、出された意見を整理するとどうなりますか？」という発言を基本として参加者に考えさせる。謎解きは人間の興味・関心の最も高まる場所であり、会議のポイントである。

これを司会者がやってしまうと参加者の満足度は低くなる。

- ・ 合意形成サイクルにより会議を「発言の場」ではなく、「聞き合う場」にする。



※このサイクルを繰り返すことにより、参加者全員の意見を十分に出させて、一緒に考え、意見を聞き合うことができれば「最善の策ではないかもしれないけれど、とにかく全員で一度やってみよう。」という「合意」に至る。

スキル③楽しく自由な雰囲気づくり

- ・ アイスブレイク … 例：近況報告 会議の前に全員が一度は口を開いておく
※発言しやすい状態にさせる。
- ・ 会場設定…口の字は、参加者の間に空間（壁）ができてしまい、発言しにくい。
- ・ 実物を用意…具体物があれば目の前に置いて話し合いをする。発想が広がる。
- ・ 付箋を正しく使う…はがす時は、横から→貼ったときにめくれない→見やすくなる。

※これらのことにより発言しやすい環境をつくることできる。

スキル④「素早い情報の取り出し、関連付け、価値付け」の方法

- ・ 合意形成サイクルを繰り返すのは、時間がかかる。
 - ・ 通常授業（50分）では、1サイクルしかできない。
ファシリテーションにおいては、話し合いの時間がない場合、1回のサイクル後に、ファシリテーターがまとめ役になることがある。その際に必要な技術を身に付けるために第6時を計画した。
- 1 素早い発言の整理と見やすい板書【範読原稿1指導のポイント参照】
→単語だけを板書する・字体は丸文字、四角い文字・色の区別・強調の方法など基本的な技術を身に付けさせる。
 - 2 合意点を見付け、話の展開を提示する【範読原稿2指導のポイント参照】
→対立した意見が出た場合に司会者としてどうするべきか、教師の範読事例と演習を基に考えさせる。
 - 3 発言の意図を確認したり予測したりする【範読原稿3指導のポイント参照】
→発言の内容が分かりにくい場合、遠まわしな表現の場合に司会者としてどうするべきか、教師の範読事例と演習を基に考えさせる。

「合意形成のための会議」

課題解決に向けて話し合おう

三年 組 番

社会への提案

1 取り上げたい課題(個人)

5 全体会議②の記録

2 グループ会議①

課題

根拠・意義

3 全体会議①で決定したこと

6 振り返りの記録

4 グループ会議②

具体案

根拠

「合意形成のための会議」 同会の方法を身に付けよう

三年組番

[Empty box for name and number]

1 会議の進め方

よかった点

改善したい点

2 スピードが速い発言

(素早く・分かりやすく・要点を板書する)

写真貼付

振り返りのポイント

3 複数の発言(合意点を見付け出す)

写真貼付



加筆後の板書
写真貼付

「合意形成のための会議」

司会の方法を身に付けよう！

三年 組 番

4 意図が分かりにくい発言
(意図を確認・予測する)

写真貼付



加筆後の板書
写真貼付

5 これまでの学習を振り返る

「合意形成のための会議」 司会の方法を身に付けよう！

よくある会議の風景

会議の目的＝決める

会議では決まったけど
「僕はやらないよ…」
会議後にブツブツ不平
不満を…

★「意見のある人はいま
せんか」で始めると…

一部の発言力のある人
の意見だけ…。

一度も発言できない人

★「〇〇さんの意見に
対して…」

参加者同士を対立させて
しまい雰囲気が悪くなり
ます。

★意見がばらばらで
「議長、まとめて！」
「ちゃんと進行して！」

★意見が真つ二つに…
平行線…どうやって結
論を？

★時間がない…
…さあどうする？

こうならないために 司会って楽しい

「参加者が納得をする」(合意形成)

★そのための進行技術 → **ファシリテーション**

①できるだけたくさんの意見を引き出す！

②活発に意見が出るような雰囲気をつくる！

・まず **紙**に書き出させる。全ての意見を平等に扱う。
(思いつく限りのアイデアをたくさん)

※今回の授業では、「発展コース」の人が練習をして
います。(付箋を模造紙に貼り、似たものを集め、
それに見出しを付ける。)

・「他に意見はありませんか？」 ↓ 様々な意見を聞くために！

・楽しい雰囲気づくりのテクニック (社会に出たら使おう)
アイスブレイク 会場の工夫 資料は実物を お茶とお菓子

③合意形成サイクルで、会議を「発言の場」ではなく
「聞き合う場」にしよう！

・「たくさんの意見が出ました。班ごとにどのように整理でき
るか話し合ってください。」

意見を整理するところが一
番楽しい！司会者はそれを
奪ってはなりません！

結論は「**多数決**」でもよい

全員の意見を十分に出し合っ
て、みんなで一緒に考え、意見
を聞き合った会議なら「最善の
策ではないかもしれないけど、
とにかく全員で一度やってみよ
う」という「**合意**」に至るは
ずです。

このサイクルを繰り返す

参加者自身に結論を出して
もらう。

Ⓧ 時間がない場合は、司会者
がリードして整理する。

人はいろいろな意見を
言いながら考えが広が
り、自分自身の問題と
して本気で考えるよう
になる。

よい意見よりたくさん
他には…

★合意形成型会議の進行役＝**ファシリテーター**
他の人の意見をじっくりと聞き合う場をつくる人

① **発言者の話すスピードが速い場合** →ねらい「**中心を聞き取る・板書に慣れる**」

場面「中学生の言葉遣いについて」というパネルディスカッション

最近の中学生の流行語について違和感を感じています。流行語を使うことに対しては、特に問題視していません。私も若い頃には、ずいぶん使っていたように思います。言葉というものは、常に変化し続けるもので、若者が、自分達の微妙な感じ方を言葉遊びの感覚で変化させたり、新しい言葉を作るのは自然な姿だと思います。

私が問題だと感じているのは、その使い方です。流行語をむやみやたらに公の場で使ったり、ましてや敬語を使うべき年上の方に対してまで使ってしまう人がいます。聞いていて非常に不愉快な思いをします。時と場と相手に応じて、きちんと言葉を使い分けなければ、言葉の魅力はなくなってしまうのではないのでしょうか。

メモ例

流行語 ○言葉は変化するもの
微妙な感じ方の表現可
×使い方…公の場で使用
年上の人を使用

↓

時と場と相手 使い分け

指導のポイント

① 単語を書く。 ホワイトボードに書く

② 字体は「丸文字」「四角文字」↓ 斜体は見にくい。

③ マーカー ↓ 通常は黒。(黒板は白) 大切なことは青。
決定事項は赤色を使用するのが基本。

④ 強調の方法

- ・字の大きさや太さの変化
- ・線を引く(文字を囲む・波線)
- ・◆や■、↓、?などの記号を使う
- ・見出し番号 1 ↓ (1) ↓ ①の順

② **複数の発言を聞いてから板書する場合** →ねらい「**合意点を見付ける・話の展開を提示する**」

場面「放課後の図書室の開室日を増やしてほしい」という要望に対する

図書委員会での話し合い

- A 開室日を増やしてほしいという要望に賛成です。委員会目標である「貸出冊数を増やす」ために本の紹介などをしてしていますが、現状は昨年と同じくらいしか貸し出しされていません。肝心な本にふれる機会がなければ読むことも借りることもできません。いつでも本にふれられるという環境をつくることこそ私たちの一番の仕事だと思います。
- B 開室日を増やすことに対するメリットは分かります。でも、現実的に今のメンバーでは無理です。みんな部活動や習い事があつて、やつと決めた開室日です。これ以上は増やすことはできません。それに、開室日を増やすと、担当日数が不平等になる可能性があります。
- C Bさんの意見に賛成です。今まで二年間、週二回の開室だったんだからそれでいいのではないかな。

メモ例
 賛成 → 環境づくり 一番の仕事
 現状 → 貸出冊数 昨年並み
 反対 → 当番がいない 不平等が生まれる
 現状でよい

指導のポイント
 司会者としてこの発言を聞いたときどうすべきか。
 ① Cに対して↓感情中心の発言者には、その本音や背景をよく聞く。しっかりと話を聞かないで結論や対策を急ぐと議論が進まないばかりか、しこりを残すことになる。
 ② 意見の一致点を見いだす。
 ・ 一致↓開室日増のメリット・貸出数は昨年並み
 ③ できない理由ではなく、どうすればできるかを考える。
 「当番が平等に割り振れないとしたら、今までの方法とは別の方法はないでしょうか。」↓②と③を繰り返す。

範読原稿 3

③ 発言の意図が分かりにくい場合 → ねらい「発言の意図を確認・予測する」

場面「読み聞かせの留意点について」の話し

感情を込めて読むという意見には、どちらかと言うと反対です。自分がおもしろいと思う場面で、声の調子を変えたり、身振りを付けたりするのはすよね。

自分がおもしろいと思うところ、子供たちがおもしろいと思うところって違ふときもあるし、読み手の感動を押し付けられたら子供たちは、自分で自由に想像できなくてしらけてしまうと思います。

でも、だからといって声の大きさや速さ、抑揚を付けないということではないのです。やはり、物語なので気持ちが伝わるようには読むべきだと思います。

メモ例
 感情を込める → 反対 → おもしろさの押し付け
 読み手の
 自由な想像 ×
 登場人物の
 ○ 気持ちが伝わるように読む

指導のポイント
 司会者としてこの発言を聞いたときどうすべきか。
 ① 発言者に発言内容を確認する。
 「つまりですね」板書のメモを確認する。
 ② 発言者が伝えきれなかった部分を補足する。
 新たな視点につながることもある。
 「○○さんの発言から、感情を込めるということは、『読み手の感情を込める』という考えと『登場人物の気持ちを表す』という考えがあるということですね。さてみなさん：」

発展的な学習を推進するための教材・指導法の開発委員会(中学校)委員名簿

氏名	所属及び職名	備考
児島 邦宏	東京学芸大学名誉教授	
秋山 純子	杉並区立西宮中学校長	中学校国語科部会
大林 博	渋谷区立本町中学校主幹教諭	中学校国語科部会
小石沢 さやか	北区立赤羽岩淵中学校教諭	中学校国語科部会
大野 文	北区立浮間中学校教諭	中学校国語科部会
岩谷 俊行	杉並区立向陽中学校長	中学校社会科部会
三枝 利多	目黒区立目黒中央中学校主任教諭	中学校社会科部会
誥田 剛也	江戸川区立小松川第二中学校教諭	中学校社会科部会
島田 一郎	町田市立町田第三中学校主幹教諭	中学校社会科部会
市川 敦子	武蔵村山市立第一中学校主任教諭	中学校社会科部会
小林 博	調布市立第三中学校長	中学校数学科部会
三森 彩未	目黒区立第三中学校教諭	中学校数学科部会
徳田 哲男	足立区立西新井中学校主幹教諭	中学校数学科部会
小高 洋平	足立区立栗島中学校教諭	中学校数学科部会
亀山 大輔	調布市立第三中学校教諭	中学校数学科部会
高島 勇二	練馬区立開進第一中学校長	中学校理科部会
佐藤 豊	北区立桐ヶ丘中学校主幹教諭	中学校理科部会
荒井 英樹	立川市立立川第二中学校主幹教諭	中学校理科部会
上村 雅彦	町田市立金井中学校教諭	中学校理科部会
白川 恒	あきる野市立秋多中学校教諭	中学校理科部会
松岡 敬明	渋谷区立鉢山中学校長	中学校外国語科部会
原田 博子	江東区立深川第一中学校主任教諭	中学校外国語科部会
江濱 悦子	大田区立貝塚中学校教諭	中学校外国語科部会
宮本 猛司	世田谷区立深沢中学校主任教諭	中学校外国語科部会
太田 恵理子	江戸川区立西葛西中学校主任教諭	中学校外国語科部会

なお、本委員会については、教育庁において次の者が担当した。

氏名	所属及び職名
伊東 哲	指導部義務教育特別支援教育指導課長
宇田 剛	指導部主任指導主事(学力調査担当)
小瀬 和彦	指導部義務教育特別支援教育指導課統括指導主事
毛利 元一	指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事
山村 智治	指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事
藤田 修史	指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事
斎藤 圭祐	指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事
福泉 宏介	指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事
阿部 大介	指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事

発展的な学習を推進するための指導資料
(中学校編)
国語

東京都教育委員会印刷物登録
平成23年度 第195号

平成24年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6841
印刷会社名 広望企画株式会社

